

【現地作業者向け】 ナンバーキャッチシステム 導入マニュアル

2025. 9.30 1.0版

パナソニック コネクト株式会社 現場ソリューションカンパニー
映像メディアサービス本部
プロダクト推進部

Panasonic
CONNECT

本資料は、i-PRO AIカメラを使用したナンバー認識システム“**NumberCATCH II**”のシステム導入にあたって、
現地でのカメラ調整、総合動作テスト、設定バックアップ等の作業手順や参考情報を記載したものです。

■ 作業にあたり入手する資料

営業、設計担当より以下の資料、データを入手し参照、利用してください。

- ① ナンバーキャッチ_要求仕様書
- ② システムデザインツール プロジェクトファイル
- ③ ナンバーキャッチ 設計書

■ 作業完了後に作成する資料

作業が完了しましたら以下の資料を作成しお客様へ渡し、保守用にも保管してください。

- ① ナンバーキャッチ操作マニュアル . . . 別途テンプレート資料あり
② ナンバーキャッチシステム完成図書 . . . 別途テンプレート資料あり

■ 作業完了後に保存するファイル

作業が完了しましたら以下のファイルを保守用に保存、保管してください。

- ① 各機器・アプリケーションの設定ファイル
② システムデザインツール プロジェクトファイル ……カメラ調整後の最終状態を反映したもの

カメラ

ナンバーキャッチカメラの調整・設定・動作確認

システムデザインツール（SDT）で事前に算出した設定値を基に、
日中でのカメラ撮影条件を設定します。



1-1 SDT起動&プロジェクトファイル読込・確認

- ①下記サイトにアクセス（ログイン）
SYSTEM DESIGN TOOL



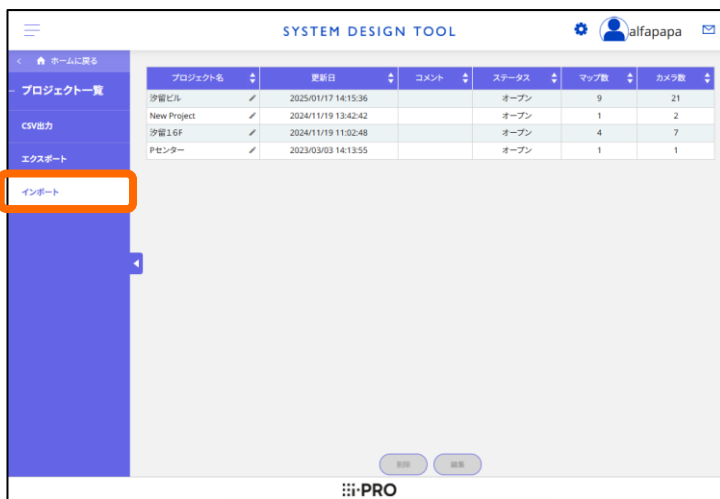
- ②初回起動時はユーザー登録を行う。
ユーザー登録することで、
プロジェクトの保存・呼出しが可能。



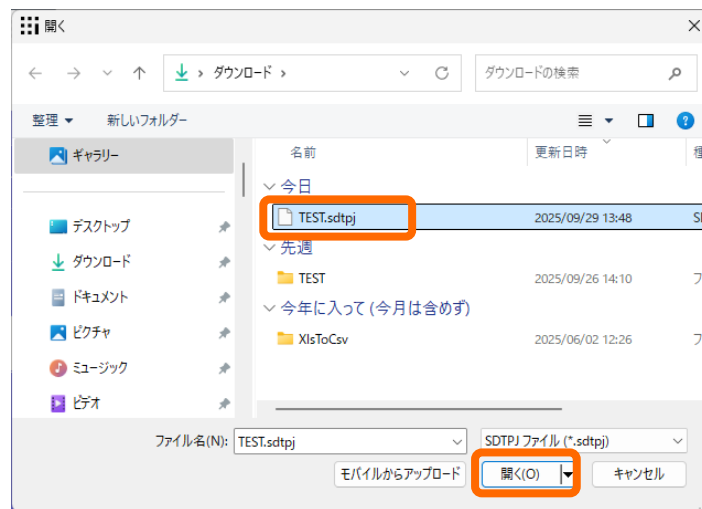
- ③「プロジェクト一覧」を選択する。



- ④ プロジェクト一覧画面で該当のプロジェクト
を選択し、「インポート」をクリック。



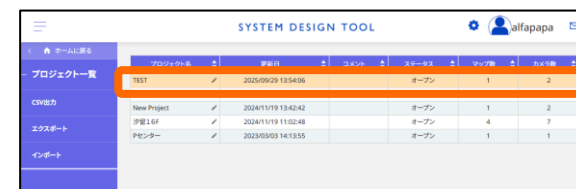
- ⑤ 予めPCにいたプロジェクトファイル
を選択し開く。
(****.sdtproj)



- ⑥ プロジェクトファイルのPINコードを入力
(数字4桁、予めファイル提供者に確認しておく)



- ⑦ インポートしたプロジェクトファイルを
ダブルクリックして開き閲覧、確認する

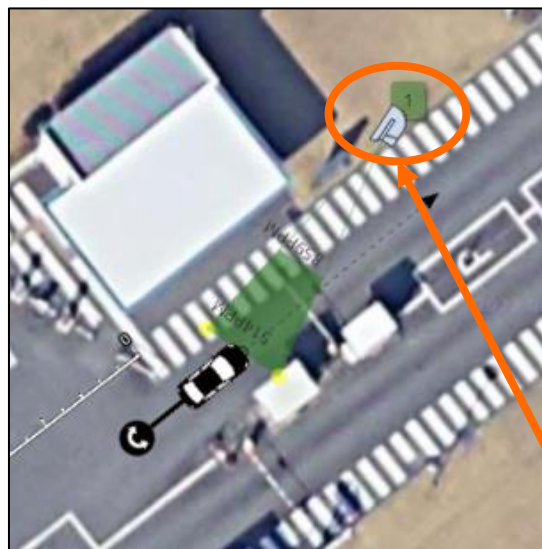


カメラのズーム倍率を調整します。

①SDTのマップ表示や一覧表示で
カメラの設置場所・高さ・ズーム倍率
を確認し、カメラを設置する。

ブラウザでカメラにアクセスし、
②「設定」⇒③「ズーム」
⇒④「ズーム/フォーカス調整」を押す。

ズームフォーカス調整画面が表示されたら、
⑤倍率指定のスライダーをSDTで決めた倍率に
⇒⑥「実行」⇒⑦「設定」を押す。



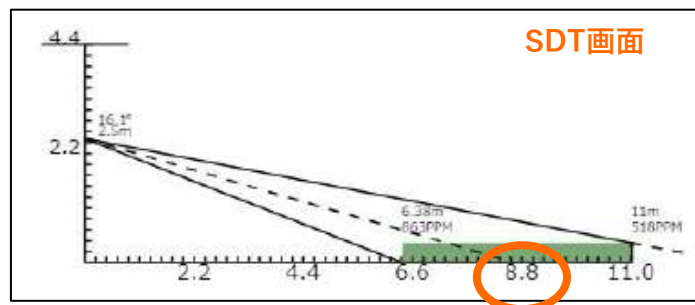
SDTで決めたズーム倍率
(同一の倍率にできない場合は近い倍率にする)

SDTの「一覧表示」

用途	設置高さ	距離	視野角	ズーム率	俯角	圧縮方式	解像度	レート	画質	録音	ビットレート値
ナンバー認識	2.5 m	11 m	18.8°	6.15x(EX)	16.1°	H.265	1920x1080	10ips	FQ	Off	1280kbps

カメラの画角・ピントを調整します。

①テスト車両またはナンバープレート
SDTで決めた**認識エリア**の中心に
ナンバープレートが来るように配置する。



上記の場合、カメラから8.8mの所に
ナンバープレートが来るようにテスト車両を停める。

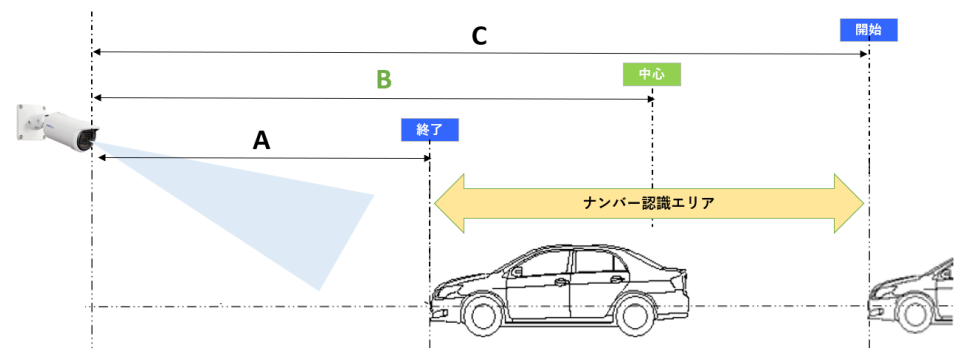
②ナンバープレートが画面の中心になるよう
カメラの上下左右の向きを調整する。



③ナンバープレート位置でフォーカスを調整し、
④**固定ピントシフト（ノーマル）**を選択の上、
⑤「設定」を押す。



設置位置が急遽変わった等、事前に条件設定できなかった場合にご活用ください。



【注意事項】

- ・システムデザインツールで確認した数値です。目安としてください。
- ・i-PRO設定ツールを使用して実際の精度確認を必ず行ってください。
- ・カメラ高さ3mの場合の数値です。高さによって多少前後します。

■ WV-S1536LNS（2MP、光学ズーム3.1倍）

ナンバー認識エリアのカメラからの距離 [m]			最適 ズーム倍率
A 終了	B 中心	C 開始	
3.8	5.2	6.6	4.2（俯角限度）
4.5	6.0	7.5	4.8
5.2	7.0	8.7	5.3
6.0	8.0	10.0	5.8
6.7	9.0	11.2	6.1
7.1	9.6	11.9	6.2（倍率上限）

■ WV-X15301-Z1LN / S15301-Z1LN（2MP、光学ズーム10倍）

ナンバー認識エリアのカメラからの距離 [m]			最適 ズーム倍率
A 終了	B 中心	C 開始	
3.8	5.2	6.6	2.1（俯角限度）
4.7	6.4	8.0	2.4
6.0	8.0	10.0	2.9
7.3	9.6	12.0	3.5
8.5	11.2	14.0	3.9
9.7	12.8	16.0	4.4
11.1	14.4	18.0	5.1
12.3	16.0	20.0	5.6
13.6	17.6	22.0	6.1
14.9	19.2	24.0	6.7
16.2	20.8	26.0	7.3
17.5	22.4	28.0	7.9
18.7	24.0	30.0	8.4
20.1	25.6	32.0	9.0
21.3	27.2	34.0	9.6
22.5	28.8	36.0	10.0
23.7	30.4	38.0	10.5
24.9	32.5	40.0	11.1

ナンバー認識アプリケーションの設定を行います。



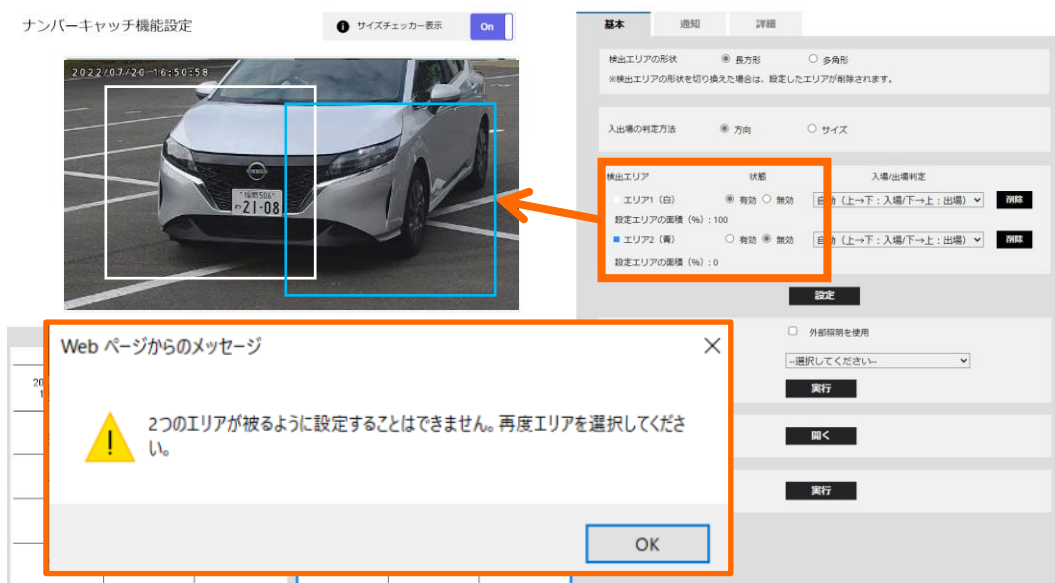
・ ナンバー検知エリア：
最大2エリア設定

・ 入場/出場判定設定：
入場、出場、自動

2-1 検出エリア設定 (2/2)

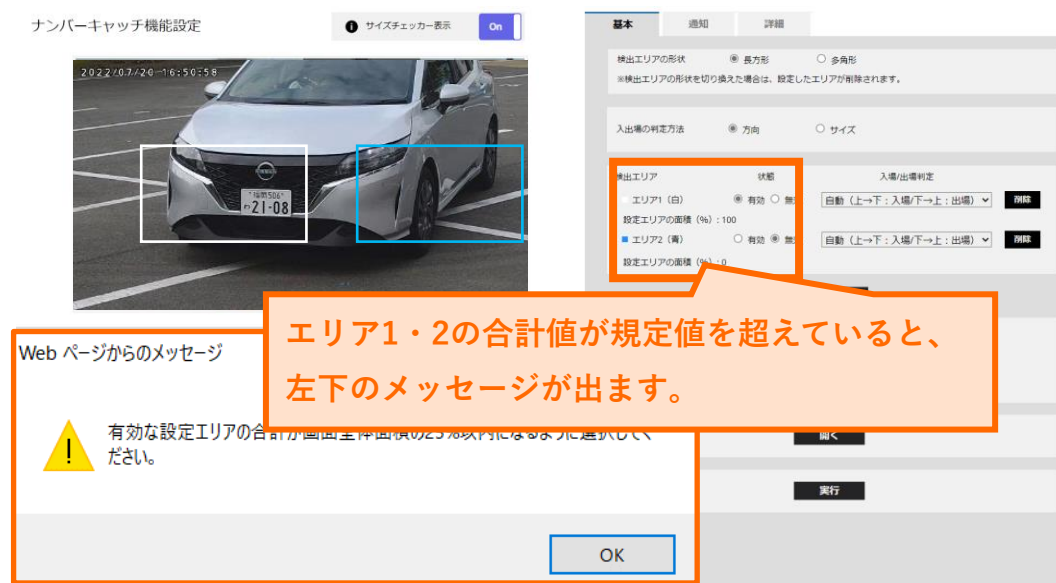
■ 全カメラ共通：

2つの検知エリアを重ねて設定はできません。



■ 5MP / 8MPカメラのみ：

2つの検知エリアの合計面積は、
5MPカメラ 55%以下 8MPカメラ 25%以下 にしてください。



【参考】

- カメラでのナンバー認識について、
一定間隔(100ms または 200ms)で認識した同一IDの最大9枚の結果から多数決処理と認識結果の文字認識信頼度情報により、判定結果とベストショットを決定。
同一IDのフレームを最大9フレーム用いて、認識結果の文字認識信頼度情報が最も高い画像をベストショットとして送信しております。

入場/出場判定設定を行います。

▶①基本設定（基本タブ）を開く

検知エリアでナンバー認識する車両の入場/出場判定設定

ナンバーキャッチ機能設定

① サイズチェッカー表示 ☐ off

② 基本 通知 詳細

検出エリアの形状 ☒ 長方形 ☐ 多角形
※検出エリアの形状を切り換えた場合は、設定したエリアが削除されます。

入出場の判定方法 ☒ 方向 ☐ サイズ

検出エリア 状態

エリア1 (白) ☒ 有効 ☐ 無効

検出エリアの面積 (㎡) 100

入場/出場判定

自動 (上→下 : 入場/下→上 : 出場) ▼

入場
出場
自動 (上→下 : 入場/下→上 : 出場)
自動 (下→上 : 入場/上→下 : 出場)

自動 (小→大 : 入場/大→小 : 出場)
自動 (大→小 : 入場/小→大 : 出場)

エリア1			エリア2		
日時	認識結果	ナンバー画像	日時	認識結果	
2022/07/20 16:50:01	画面 わ 21-08		1900/01/00 00:00:00	未検出	

画質調整画面 ① 開く

ナンバー照合設定 ① 開く

設定データ初期化 実行

【注意事項】

- ・1台のカメラで入場/出場の両方を撮影する場合のみ「自動」を選択してください。
- ・「自動」の場合：「ベストショット判定に使用する最低枚数」※を2枚にしてください。

▶②入場/出場判定(方向/サイズ)設定

検出結果に付与する情報を設定します。

●共通：

- ・入場：常に「入場」の情報を付与。
- ・出場：常に「出場」の情報を付与。

●方向：

- ・自動 (上→下 : 入場/下→上 : 出場) :
画面の上方⇒下方の移動は、「入場」
下方⇒上方の移動は、「出場」の情報を付与。
- ・自動 (下→上 : 入場/上→下 : 出場) :
画面の下方⇒上方の移動は、「入場」
上方⇒下方の移動は、「出場」の情報を付与。

●サイズ：

- ・自動 (小→大 : 入場/大→小 : 出場) :
サイズが、小⇒大の移動は、「入場」
大⇒小の移動は、「出場」の情報を付与。
- ・自動 (大→小 : 入場/小→大 : 出場) :
サイズが、大⇒小の移動は、「入場」
小⇒大の移動は、「出場」の情報を付与。

※ 次ページの詳細設定を参照

【参考】ナンバー認識アプリ 詳細設定

基本 通知 **詳細** 「詳細」タブをクリック

高パフォーマンスモード ⓘ ☒ ON ☐ OFF

ベストショット送信間隔 500ms ▼

同一車両の送信間隔 通知なし ▼

全体画像のサイズ ☐ 640x360 ☒ 1280x720

ベストショット画像選択 ⓘ

エリア1 (白) ☒ 先優先 ☐ 後優先

エリア2 (青) ☒ 先優先 ☐ 後優先

ベストショット送信抑止機能 ⓘ ☐ ON ☒ OFF

ベストショット判定に使用する最低枚数 ⓘ 1枚 ▼

ベストショット判定に使用する項目 ⓘ

☒ 陸事 ☒ 車種 ☒ 用途 ☒ 一連番号 ☒ 入出場判定

設定

■高パフォーマンスモード (ON/OFF、初期値：OFF) ※ナンバー認識アプリ使用时必ずONにしてください

ナンバー認識時の処理フレームレートの向上、検出エリアの制限値の引き上げを行います。

- ・処理フレームレート … 2MP：最大15fps 5MP/8MP：最大10fps
- ・検出エリア制限 … 2MP：100% 5MP：最大70% (※多角形時は50%) 8MP：最大50% (多角形時は40%)

■ベストショット送信間隔 (300～1000ms、初期値：500ms)

ナンバー情報の取得を早めたり、遅くする必要がある場合に設定。(通常は変更不要)

短くするとカメラの処理負荷が高まります。SSL使用時は500msより短くしないでください。

■同一車両の送信間隔 (1秒/10秒/1分/5分/通知なし、初期値：通知なし (再送しない))

同一車両の認識結果の送信間隔。

※初期状態ではベストショット判定時にナンバーの認識結果が前回と同じだった場合は送信しません。

※再送が必要な場合に変更してください。ゲート機器との連携などで、1～10秒の間での再送が必要な場合は下記CGIコマンドで設定してください。

```
http:// (カメラIPアドレス) /  
cgi-bin/adam.cgi?methodName=setApplicationPreference&appName=NumCatchApp&prefType=Integer&prefName=lpr_bs_stop_interval&value=5 (秒数)
```

■全体画像のサイズ (640x360/1280x720、初期値：1280x720)

送信する全体画像のサイズ。通信データ量を抑制したとき等に変更。

■ベストショット画像選択 (先優先/後優先、初期値：先優先)

「先優先」ナンバー検知開始時の画像を送信、「後優先」ナンバー検知終了時の画像を送信。

「後優先」を選択した場合、同一車両の送信間隔は「通知なし」以外は設定不可。

エリア1とエリア2の両方のエリアを設定している場合に、いずれかで「後優先」を選択すると全体画像がズレる事があります。

■ベストショット送信抑止機能 (ON/OFF、初期値：OFF)

曖昧な認識結果を送信させない場合に設定。

「ON」認識不可 (*表示) の項目がある場合は通知先に送信しない

「OFF」認識不可 (*表示) の項目がある場合も通知先に送信する

■ベストショット送信に使用する最低枚数 (1枚/2枚/3枚、初期値：1枚)

ベストショット判定に使用する最低枚数。

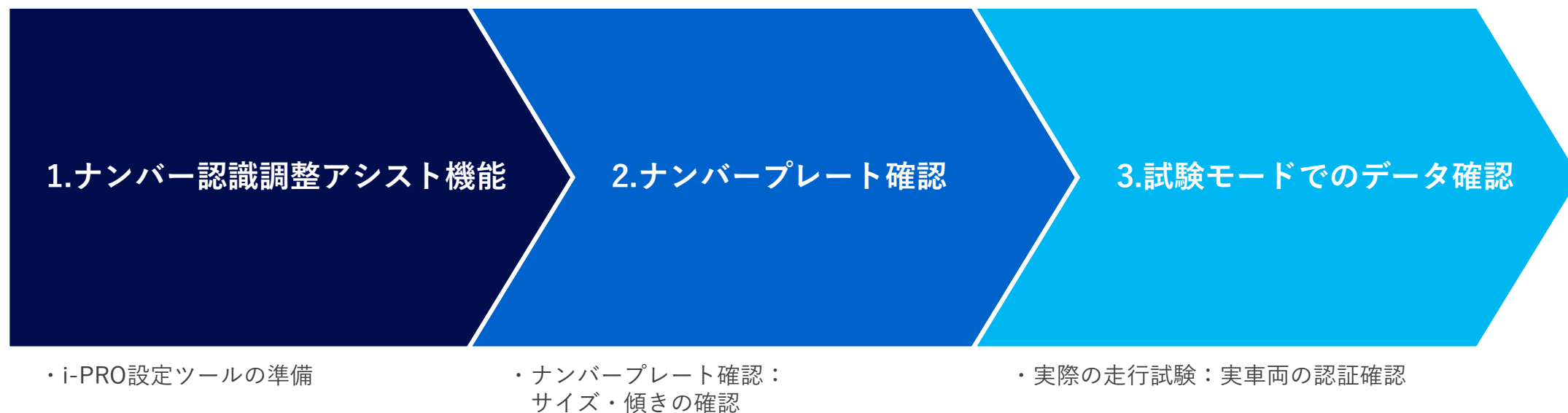
枚数を多くすると誤った結果を出しにくくなりますが、失報しやすくなります。

カメラ1台で入出場判定をする際には「2枚」で設定してください。

■ベストショット判定に使用する項目 (陸事/車種/用途/一連番号/入出場判定、初期値：全て選択)

ベストショット判定の対象項目。ナンバー通知で車両カウントを行う際などに変更。

現場環境で、i-PRO設定ツールを用いて精度確認を行います。



i-PRO設定ツールのナンバー認識調整アシスト機能を起動します。

■i-PRO設定ツールを起動します。

- ① 調整を実施するカメラにチェックの上、
- ② 「アプリケーションの設定」を選択
- ③ 「ナンバー認識調整アシスト機能」を選択
- ④ 「設定／確認画面へ」を押し、調整開始です。



認識が可能なナンバープレートのサイズ・傾きかどうかを事前確認します。

■車をカメラのナンバー検出エリアの最上部まで移動し、

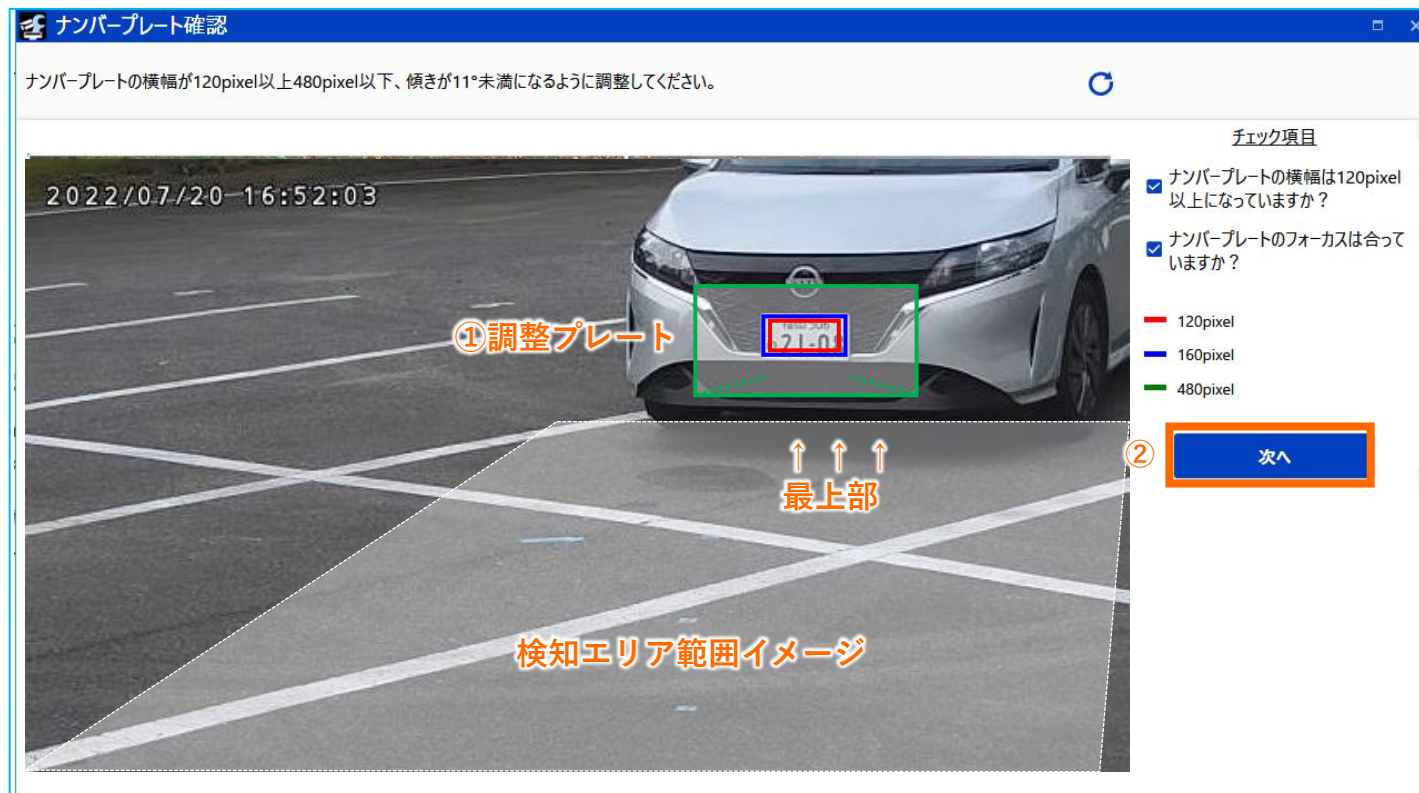
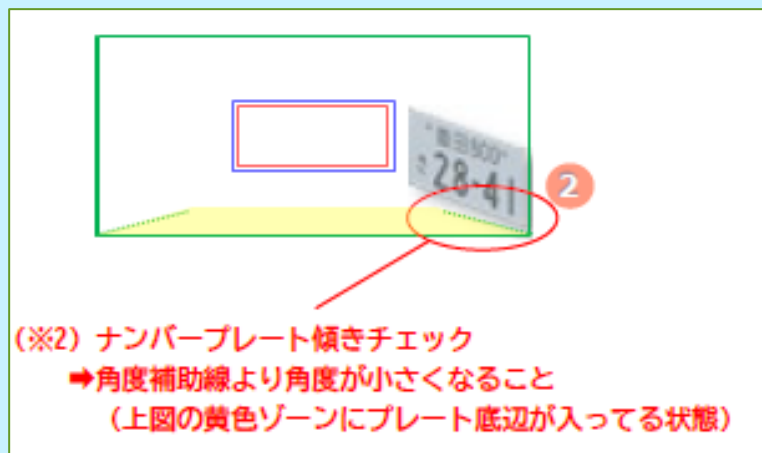
① 調整プレートを使い、ナンバープレートのサイズ・傾きを確認します。

※サイズや傾きがNGの場合は再度カメラ調整を行う。

確認完了後、②「次へ」を押し、試験開始です。

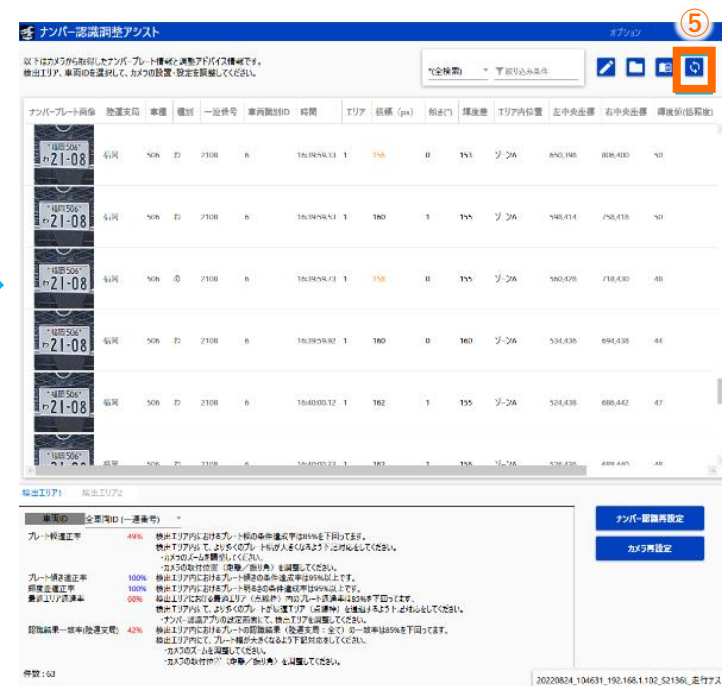
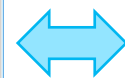
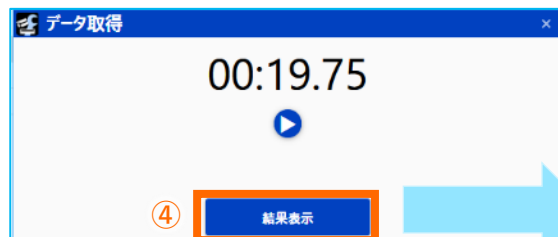
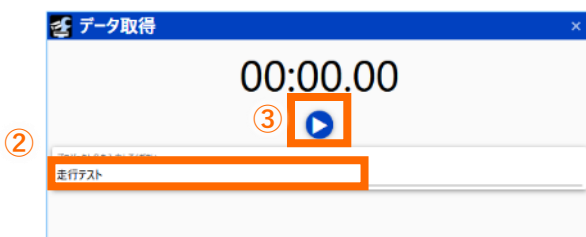
【調整プレートでの確認項目】

- ・サイズ：青枠(160pixel)以上であること
- ・傾き：緑破線で範囲内であること



車両走行試験を行い、認識精度を確認します。

- ▶①「データ取得ボタン」を押し、②テストプロジェクト名を入力。（測定結果はプロジェクト名フォルダに測定ごとに毎回保存され、後で確認できます）
- ③「実行ボタン」を押し、走行試験を行います。
- 車両が通過し終わったら③■停止ボタンを押し、④「結果表示ボタン」や⑤「画面切替ボタン」を押し、走行時の認識結果レポートを確認する。
- ⇒ ナンバー情報（陸事・車種・種別・一連番号）が全て正しく認識できている枚数が9枚以上※1 になっていれば完了です。
- ⇒ 結果が悪い場合※2 は、画面に表示された⑥「ガイダンス」や⑦「トラブルシューティング」を参考にし、カメラ調整を実施してください。

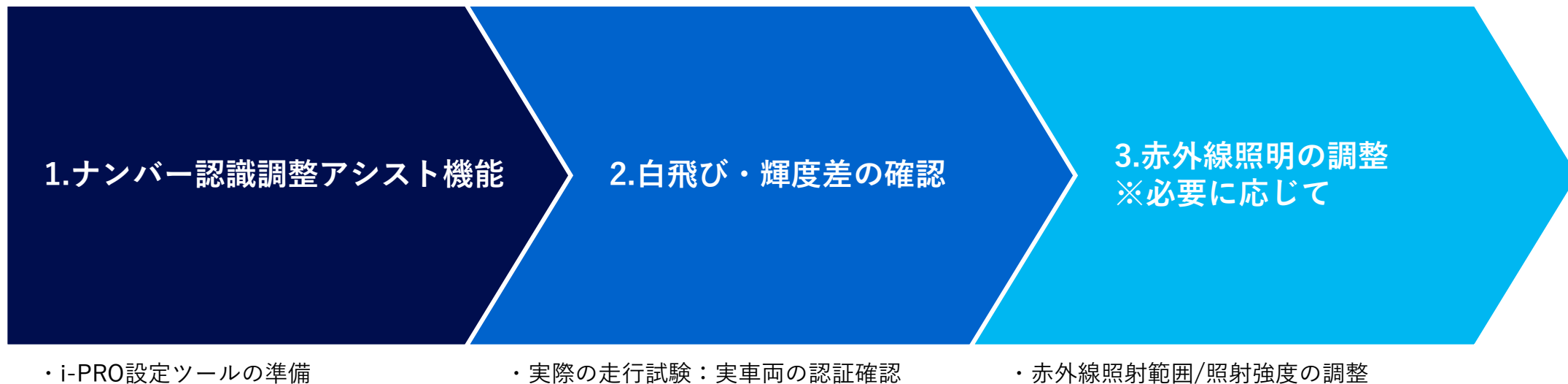


※1：推奨9枚以上、最低4枚以上

※2：輝度差（推奨：80以上、最低60以上）



夜間でもナンバー認識できるようにカメラ調整を行います。
本STEPは、夜間の日が暮れた状態で作業を行ってください。



P.13～14と同様の作業を行います。
ツールの起動 / プレーットのサイズ・傾き確認を実施

試験モードで、ナンバープレートの輝度差の確認を行います。
作業手順はP.15同様であり、本ページでは確認項目を説明します。







- ① データ取得を行います。（P.15参照）
- ② 「画面切替ボタン」で、右図の画面を表示します。（P.15参照）
- ③ 「ナンバープレート画像」が白飛びしていないかを確認します。
 - ・ 白飛びしている場合：次ページの対応実施
 - ・ 白飛びしていない場合：問題なし
- ④ 「輝度差」を確認します。
 - ・ 数値が60未満（オレンジ/赤文字）：次ページの対応実施
 - ・ 数値が60以上（黒文字）：問題なし

ナンバー認識調整アシスト

以下はカメラから取得したナンバープレート情報と調整アドバイス情報です。
検出エリア、車両IDを選択して、カメラの設定・設定を調整してください。

③

④

ナンバープレート画像	検出エリア	車種	種別	一連番号	車両識別ID	時間	エリア	縦横 (px)	傾き(°)	輝度差	エリア内位置	左中央座標	右中央座標	輝度値(低輝度)
	福岡	506	わ	2108	6	16:39:59.33	1	156	0	153	ゾーンA	650,198	806,400	50
	福岡	506	わ	2108	6	16:39:59.53	1	160	1	155	ゾーンA	548,414	758,418	50
	福岡	506	の	2108	6	16:39:59.73	1	158	0	155	ゾーンA	560,428	718,430	48
	福岡	506	わ	2108	6	16:39:59.92	1	160	0	160	ゾーンA	534,436	694,438	44
	福岡	506	わ	2108	6	16:40:00.12	1	162	1	155	ゾーンA	524,438	686,442	47
	福岡	506	わ	2108	6	16:40:00.32	1	162	1	155	ゾーンA	526,438	688,442	48

赤外線照明の照射強度と照射範囲を調整します。

- ▶①ナンバー認識アプリの基本設定（基本タブ）を開く
- ②画質調整画面「開く」を選択
- ③シーンファイル「夜間モード」を選択し、シーンファイルタイトル「読み込み」を押す。

■赤外線照明の調整：④「白黒切替」を選択

P18より、白飛びが発生している場合：⑤IR Light 照射強度を調整。

映像を確認しながら、「high ⇒ middle / low」に変更します。

P18より、輝度差が60未満の場合

：⑥IR Light 照射範囲制御「マニュアル」を選択し、調整。

映像を確認しながら「4 ⇒ 3 / 2 / 1」に変更します。

① 基本 通知 詳細

検出エリアの形状 ☒ 長方形 ☐ 多角形
※検出エリアの形状を切り換えた場合は、設定したエリアが削除されます。

入出場の判定方法 ☒ 方向 ☐ サイズ

検出エリア 状態 入場/出場判定

エリア1 (白) ☒ 有効 ☐ 無効 自動 (上→下：入場/下→上：出場) 削除

設定エリアの面積 (%) : 100

エリア2 (青) ☐ 有効 ☒ 無効 自動 (上→下：入場/下→上：出場) 削除

設定エリアの面積 (%) : 0

設定

推奨画質設定 ☐ 外部照明を使用
--選択してください--

実行

画質調整画面 ① ② 開く

ナンバー照合設定 ① 開く

設定データ初期化 実行

※変更した内容は即座に反映されます 2:夜間モード

+画質基本調整

+スーパーダイナミック ☒ On ☐ Off

④ +光量制御モード 屋外撮影

-白黒切替 On (IR Light On)

レベル

1 白黒への切替照度
0:1lux, 1:2lux, 2:4lux, 3:8lux(参考)
カラーへの切替照度
上記照度の約5~8倍の明るさ
※環境や条件によって変わります。

リセット

切替時間 10s

⑤ IR Light 照射強度 High

IR Light 照射範囲制御 ☒ 自動 ☐ マニュアル

⑥ IR Light 照射範囲(マニュアル) 4
IR lightの照射範囲のマニュアル設定
1:狭い-4:広い

リセット

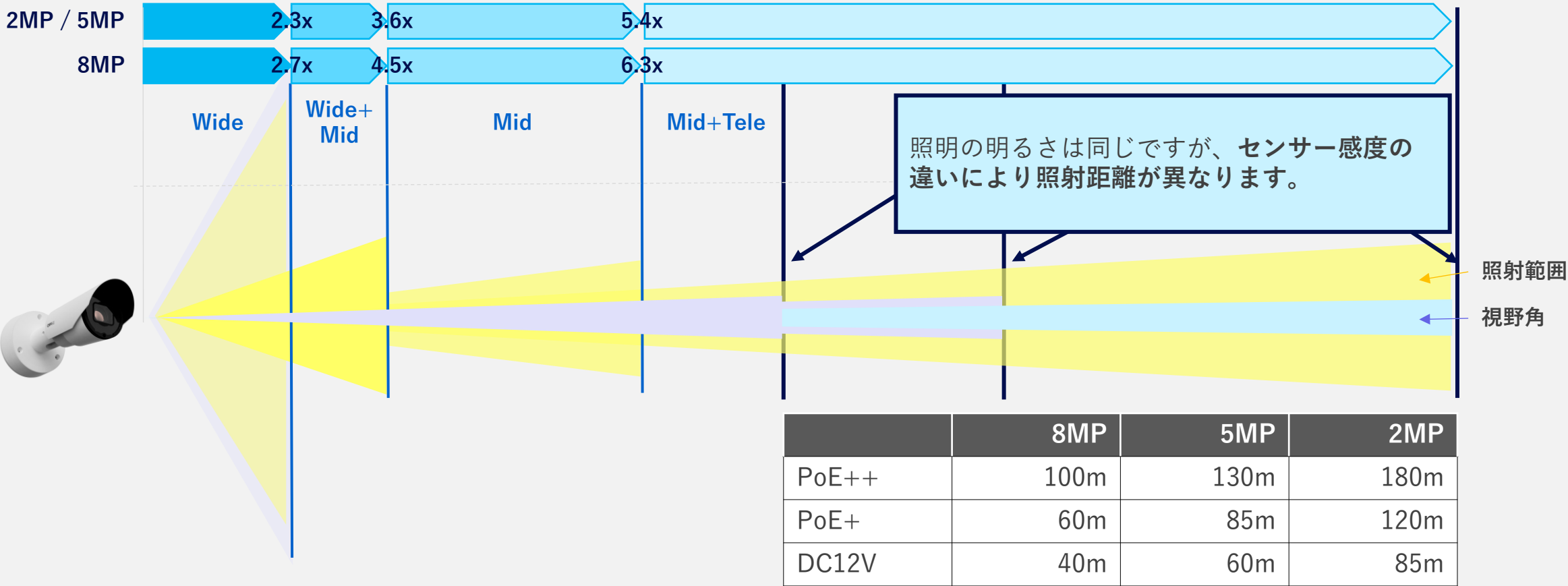
IR Light 白とび抑制 ☐ On ☒ Off

-シーン登録

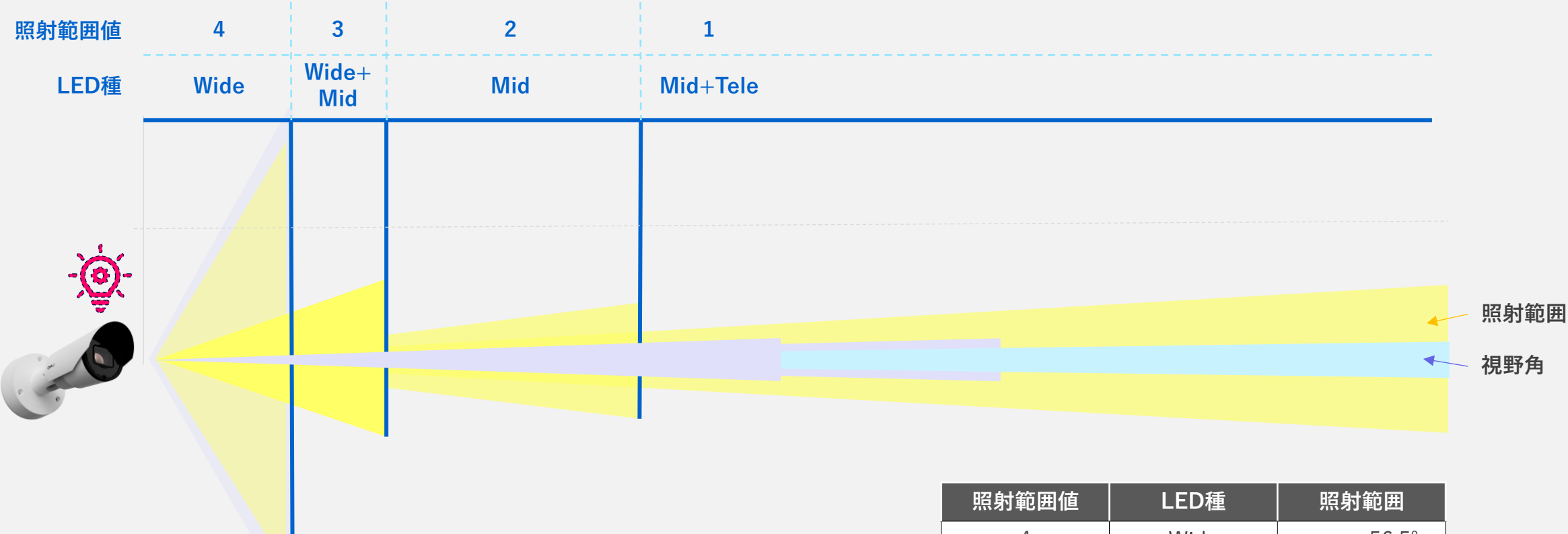
シーンファイル 2:夜間モード

③ シーンファイルタイトル 夜間モード
読み込み 登録

ズーム倍率に応じて、赤外線照明の照射範囲を自動で切り替えます。（4段階）



照明強度を変えながら、照射範囲の制御を行います。



【参考：Wide時の画角】

- ・ 2MP：62°
- ・ 5MP：58°
- ・ 8MP：62°

【参考：照射範囲値】

IR Light 照射範囲(マニュアル)

4

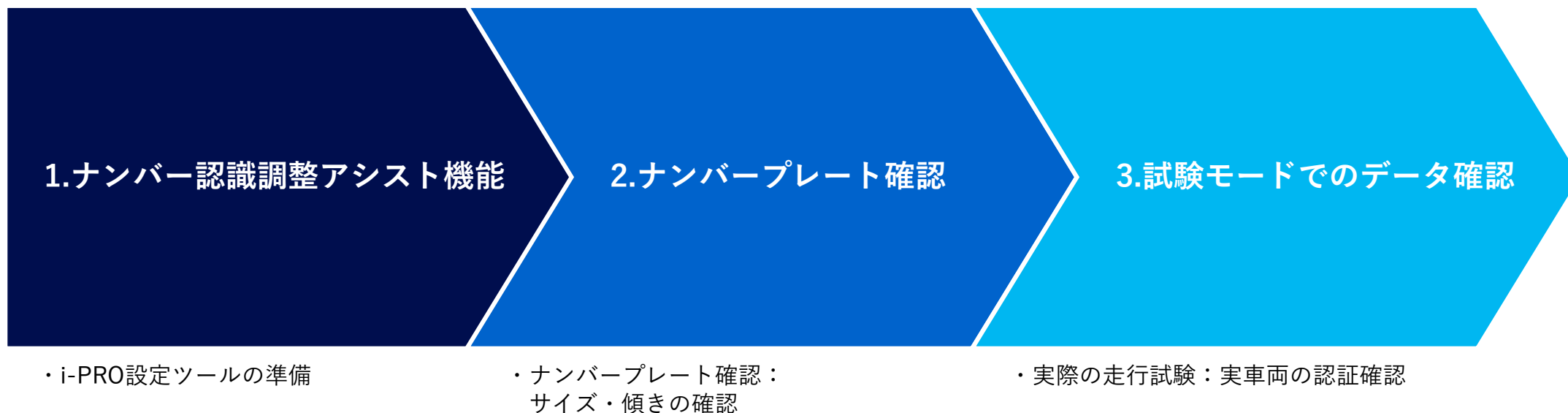
リセット

IR lightの照射範囲のマニュアル設定
1:狭い-4:広い

照射範囲値	LED種	照射範囲
4	Wide	56.5°
3	Wide+Mid	21.9°
2	Mid	19.0°
1	Mid+Tele	17.0°



STEP3(P.12～)の、「i-PRO設定ツールでの実写走行確認」作業を
夜間の日がくれた状態で行ってください。



PCアプリケーション

ASM300ナンバー認識アプリケーションの設定・動作確認

1. ナンバー認識情報表示

1 ナンバー認識情報表示

カメラで認識したナンバー情報が画面に表示されるか確認してください。

① ASM300の操作モニターのツールバーの「ナンバーキャッチ」アイコンをクリック。



② 画面上部の「認識情報」タブをクリック。

③ 「オートスクロール」をクリックしON(緑)にしておくと、
カメラでナンバーを読み取る度に、最新のものから上から順に
ナンバー情報が自動的にスクロールして表示されます。

④ リストを選択すると、画面右側に詳細な認識情報が表示されます。

⑤ リストをダブルクリック、または「再生」をクリックすると、
操作モニターでナンバー認識時のカメラ映像が再生されます。
(カメラがレコーダーに登録されている場合)

⑥ 「登録ナンバー追加」をクリックすると、
ナンバー照合用に登録ナンバーリストへの追加ができます。

⑦ 「編集」をクリックすると、認識したナンバー情報の編集ができます。



- ・本画面で表示できる認識情報は、最新のものから最大100件までです。(履歴は最大80万件まで保存可能)
- ・同じ車両でも、認識した各項目(陸事・車種・用途・一連番号)が1つでも異なれば、別の車両としてそれぞれ表示されます。
- ・また、同じナンバー情報であっても以下の場合は複数件表示されます。

① ナンバー認識中に外的要因でナンバープレートが未検出となり再度認識したとき。

② カメラ側の入場/出場設定を自動にしている場合に、通過中に車両が上下動したとき。

アラーム出力時に外部機器と連動させるためのI/Oユニットの設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

① ナンバーキャッチ設定画面の「I/Oユニット設定」タブをクリック。
以下、出力側について設定を行います。

② 使用するI/Oユニットの品番を以下より選択。

- ・ ADAM-6250：出力7系統（CH0～CH6）
- ・ ADAM-6256：出力16系統（CH0～CH15）

③ IOユニットのIPアドレスを設定

④ ポート番号を設定 → “502” にする

⑤ 各CHの端子名（動作や用途）を入力。

⑥ 出力時の接点信号のオン時間を選択。

⑦ 最後に「設定保存」をクリック

基本設定	カメラ設定	登録ナンバーリスト設定	照合ルール設定	滞留ルール設定
アラーム設定	履歴ルール設定	バックアップ設定	① I/Oユニット設定	メンテナンス設定

入力	出力
品番: なし	品番: ② ADAM-6256
IPアドレス:	IPアドレス: ③ 192.168.0.190
ポート番号:	ポート番号: ④ 502

CH	モード	端子名
0	L→H	
1	L→H	
2	L→H	
3	L→H	
4	L→H	
5	L→H	
6	L→H	
7	L→H	
8	L→H	

CH	端子名	時間設定
0	パトライト：緑	⑥ 5秒
⑤ 5	パトライト：赤	60秒
2	ゲート：OPEN	600ミリ秒
3	ゲート：CLOSE	600ミリ秒
4	出力端子4	5秒
5	出力端子5	5秒
6	出力端子6	300ミリ秒
7	出力端子8	5秒
8	出力端子9	5秒

⑦ 設定保存

【注意事項：IOユニット（ADM-6250/6256）の出荷時の接点出力動作】

パルス出力でノーマルオープン（NO）です。変更はIOユニット側で行う必要があります。

2. ナンバー照合

2-1 登録ナンバーリスト設定 (2/2)

▶CSVファイルで一括登録する場合

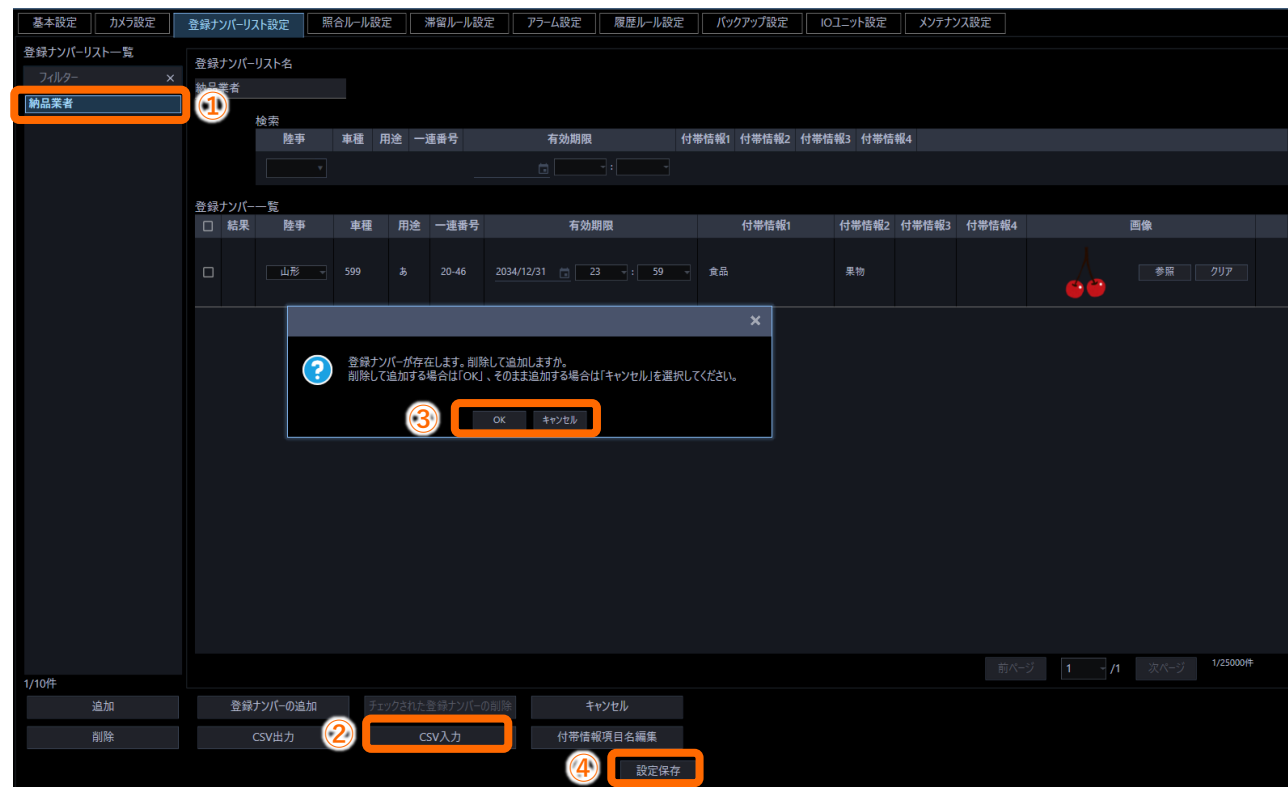
- ① 登録先の登録ナンバーリストを選択。
新規リストとする場合は「追加」をクリック。
- ② 「CSV入力」をクリック。
- ③ リストに登録ナンバーが存在する場合は、
現在の情報に上書き(現内容は削除)するか追加するかを選択。

上書きの場合：「OK」をクリック
追加の場合：「キャンセル」をクリック

要注意
- ④ 別のファイルからも追加登録する場合は②～③を繰り返し
最後に「設定保存」をクリック。

▶認識情報やアラームリストから登録する場合

別ページの「ナンバー認識情報表示・検索」や
「アラームリスト表示・検索」の項目を参照



■ CSV入力例 ※画像はCSV入力の対象外です。

		有効期限	①陸事	②車種	③用途	④一連番号	付帯情報1	付帯情報2	付帯情報3	付帯情報4
空欄	空欄	2034/12/31 23:59	多摩	500	あ	2020	XXX	XXX	XXX	XXX

※ 入力時の注意事項：

- ・有効期限空欄でCSV入力すると … デフォルト値「2034/12/31 23:59」で自動登録
- ・全角/半角の区別について … ②車種：全角でも半角でも可 ④一連番号：全角でも半角でも可 有効期限：全角入力するとデフォルト値が反映 付帯情報：全角半角混在でも可



照合に使用するカメラや照合方法・照合対象を設定します。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

- ① ナンバーキャッチ設定画面の「照合ルール設定」タブをクリック。
初期状態では「照合ルールなし」(空のルール)が登録されています。
※ルールは最大10件まで

- ② 初回登録時は「照合ルールなし」のルールを選択。
新たなルールを追加する場合は「追加」をクリック。

- ③ 照合ルール名を入力。 ※最大16文字

- ④ 照合対象となるカメラをチェック。

- ⑤ 照合対象となる登録ナンバーリストをチェック。

- ⑥ 照合方法を「一致」か「不一致」かを選択。

- ⑦ 照合対象とするナンバー情報の項目をチェック。
「陸事」「車種」「用途」「一連番号」

- ⑧ 照合対象とする入出区分をチェック。「入」「出」「指定なし」

- ⑨ 最後に「設定保存」をクリック。

- ・ 照合ルールは最大10ルールまで作成できます。
- ・ 未登録車両に対してアラーム動作を行うには、未登録車両用のルールを以下のように作成します。

⑤ 照合対象となる登録ナンバーリスト → 全てチェック

⑥ 照合方法 → 不一致

ナンバー照合時のアラーム動作を設定します。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

- ① ナンバーキャッチ設定画面の「アラーム設定」タブをクリック。
初期状態は「アラームなし」（空のアラーム）が登録されています。
※動作は最大100件まで
- ② 初回登録時は「アラームなし」のアラームを選択。
新たなアラームを追加する場合は「追加」をクリック。
- ③ アラーム名を入力。 ※最大16文字
- ④ アラームタイプは「照合」を選択。
- ⑤ 対象とする照合ルールを選択。
- ⑥ アラーム時にポップアップ画面表示する場合：
「メッセージ」にチェック ⇒ 「編集」をクリックし、表示メッセージを入力。
⇒ 「付帯情報」や「画像」も表示する場合はチェック。
※最大50文字
- ⑦ アラーム時にPCから音を鳴らす場合は「ブザー鳴動」にチェック。
- ⑧ アラーム時に映像表示する場合※
「映像」にチェック ⇒ 「ライブ」か「再生」かを選択 ⇒ 表示するカメラを選択
- ⑨ アラーム時に外部機器と連動させる場合：
「端子出力」にチェックし、IOユニットの出力端子を選択。
- ⑩ 最後に「設定保存」をクリック。

・アラーム動作のリストはナンバー照合と滞留検知をあわせて最大100件まで作成できます。
※アラーム時の映像表示は初期状態では操作モニターに表示されます。
ライブ表示は、メンテナンス設定＞アラームアクション ライブ／再生先でライブモニターに変更可能。

ナンバー照合時のアラーム動作を確認してください。

【アラーム設定】

- ・メッセージ表示あり → 操作モニターのあるウィンドウにポップアップでメッセージウインドを表示。
- ・映像表示あり（再生） → 操作モニターで対象カメラの録画映像をナンバー認識の約5秒前から自動再生。



3. 滞留検知

滞留検知に使用するカメラを登録します。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

- ① ナンバーキャッチ設定画面の「滞留ルール設定」タブをクリック。
初期状態では「滞留ルールなし」(空のルール)が登録されています。
※ルールは最大10件まで

- ② 初回登録時は「滞留ルールなし」のルールを選択。
新たなルールを追加する場合は「追加」をクリック。

- ③ 滞留ルール名を入力 ※最大16文字

- ④ 入場とするカメラ (=滞留時間の計測開始カメラ) をチェック。

- ⑤ 出場とするカメラ (=滞留時間の計測終了カメラ) をチェック。

- ⑥ 対象車両を限定する場合は、
陸事 / 車種 / 用途 / 一連番号 の指定項目を入力し、
比較方法 (完全一致 / 部分一致) を選択。
※「部分一致」選択時はワイルドカードとして“?”も使用可能
例) 車種に “1??” 入力
⇒ 普通貨物車(大型・中型トラック)が該当

- ⑦ 最後に「設定保存」をクリック。



- ・ 滞留ルールは最大10ルールまで作成できます。
- ・ 入場と出場の判定はカメラ側 (ナンバー認識アプリケーション WV-XAE202WUX)で行っています。
1台で入場と出場の両方のナンバー認識を行うカメラについては (=入出判定が“自動”)、
車両の上下動等で入場と出場の両方で認識される可能性があるため、滞留検知への使用は避けてください。

滞留検知時のアラーム動作を設定します。 事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

- ① ナンバーキャッチ設定画面の「アラーム設定」タブをクリック。
初期状態では「アラームなし」（空のアラーム）が登録されています。
※動作は最大100件まで
- ② 初回登録時は「アラームなし」のアラームを選択。
新たなアラームを追加する場合は「追加」をクリック。
- ③ アラーム名を入力。 ※最大16文字
- ④ アラームタイプは「滞留」を選択。
- ⑤ アラームとする滞留時間(入場時からの経過時間)を入力。 ※最大23時間59分
- ⑥ 対象とする滞留ルールを選択。
- ⑦ アラーム時にポップアップ画面を表示する場合：
「メッセージ」にチェック
⇒「編集」をクリックし、表示メッセージを入力（最大50文字）
- ⑧ アラーム時にPCから音を鳴らす場合は「ブザー鳴動」にチェック
- ⑨ アラーム時に映像表示する場合※
「映像」にチェック ⇒ 「ライブ」か「再生」かを選択 ⇒ 表示するカメラを選択
- ⑩ アラーム時に外部機器と連動させる場合は
「端子出力」にチェックし、IOユニットの出力端子を選択
- ⑪ 最後に「設定保存」をクリック。

- ・24時間以上の滞留に対してのアラーム動作設定はできません。（滞留検索での検索は可能です）
 - ・滞留検知は、ナンバー情報の全項目（陸事・車種・用途・一連番号）一致で判定しています。
同一車両でも外部要因等で入出場時の認識結果が異なった場合は、正しく動作しない可能性があります。
 - ・アラーム動作のリストはナンバー照合と滞留検知をあわせて最大100件まで作成できます。
- ※アラーム時の映像表示は初期状態では操作モニターに表示されます。
- ライブ表示は、メンテナンス設定＞アラームアクション ライブ／再生先でライブモニターに変更可能。

滞留検知時のアラーム動作を確認してください。

【アラーム設定】

- ・メッセージ表示あり → 操作モニターのあるウィンドウにポップアップでメッセージウインドを表示。
- ・映像表示あり（再生） → 操作モニターで対象カメラの録画映像をナンバー認識の約5秒前から自動再生。



4. その他設定

カメラから受信したナンバー認識情報の保存方法、表示方法を設定します。
事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

- ① ナンバーキャッチ設定画面の「履歴ルール設定」タブをクリック。
- ② 履歴の保存についての設定：
 - 履歴保存期間※1：30日/60日(初期値)/90日/120日
※保存期間を経過した履歴は自動削除
 - 最大履歴件数※2：1万～80万件(初期値)
※最大件数を超えた場合は古い物から上書き
- ③ ナンバー情報の一部を認識できなかった時の処理：
チェックを入れたナンバー情報項目が認識できなかった場合の動作設定※3

	履歴	表示
“表示する” <初期値>	残す	表示
“表示しない(破棄)”	残さない	非表示
“表示しない(情報は残す)”	残す	

- ④ 同じナンバーを認識した時の処理：
カメラが同じナンバーを認識した場合の動作設定※4

	履歴	表示
“表示する” <初期値>	残す	表示
“表示しない(破棄)”	残さない	非表示
“表示しない(情報は残す)”	残す	

- ⑤ 設定変更した場合、最後に「設定保存」をクリック。



※1：システム納入時に履歴保存期間に注意してください。
長期間保存が必要な場合はバックアップを取ることを推奨します。

※2：カメラから受信した全景画像は、最大履歴件数に関わらず5,000件を超えると古いものから上書きされます。
サムネイル画像（ナンバー画像）は5000件を超えても残ります。

※3,※4：「表示しない(情報は残す)」を選択した場合、検索の対象にはなり、検索結果としては表示されます。

※4：「表示しない(破棄)」 「表示しない(情報は残す)」を選択した場合、カメラや入場・出場区分に係わらず同一ナンバーが連続した際は、最初の1回目しか表示やアラーム動作は行いません。間に別のナンバーが入ると表示やアラーム動作は行います。選択する際は留意してください。

認識情報、アラーム履歴、設定データ、画像データのバックアップ設定をします。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

① ナンバーキャッチ設定画面の「バックアップ設定」タブをクリック。

② バックアップ動作の設定

- ・バックアップ周期 : 6時間/12時間/1日(初期値)/30日/160日
- ・バックアップ時刻 : バックアップ開始時刻
※周期が1日以上の場合(初期値0:00)
- ・バックアップ世代数 : 1～10世代(初期値: 3世代)
- ・バックアップ保存フォルダー
初期値: C:\ProgramData\i-PRO\ASE334\backup
→ 増設ドライブのフォルダー (F:\ASE334\backup)へ設定。

③ 手動バックアップ

④ バックアップからの復旧

⑤ 設定変更した場合、最後に「設定保存」をクリック。

The screenshot shows the 'Backup Settings' (バックアップ設定) tab selected in a configuration menu. The interface includes several input fields and buttons. Callout 1 points to the 'Backup Settings' tab. Callout 2 points to the 'Backup Cycle' (バックアップ周期) dropdown menu. Callout 3 points to the 'Manual Backup' (手動バックアップ) section, specifically the 'Execute' (実行) button. Callout 4 points to the 'Restore' (復旧) section, specifically the 'File Reference' (ファイル参照) button. Callout 5 points to the 'Save Settings' (設定保存) button at the bottom right of the screen.

【注意事項：バックアップ復旧時】

- ①バックアップファイルの保存先パス名称は、「短く」「半角文字」で入力
- ②別PCに復旧する場合は、ASM300の設定もバックアップ かつ 復旧はASM300データから
- ③ASM300データ復旧後、ASE334データ復旧前に一度再起動を実施
- ④ASE334データ復旧後、一度再起動を実施

外部機器

パトライト、IFコンバーターの設定

1. 車両ゲートとの連携

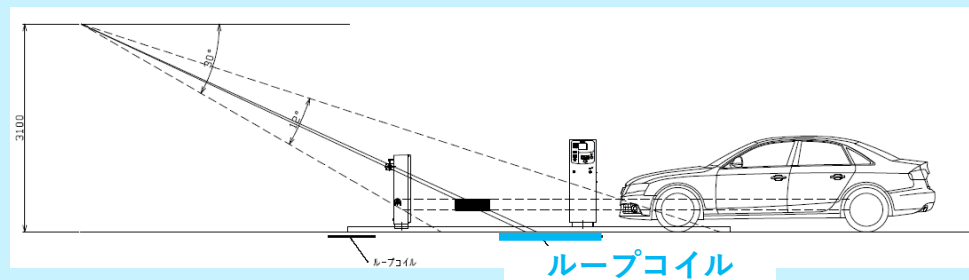
ゲート機器との連携時 ナンバー認識アプリの設定変更が必要になる場合あり

※カメラの初期設定では、同一車両のナンバー認識情報は1回しか送信しない

【連携方法 1】 ナンバー認識情報を繰り返し送出する

① 最初のナンバー情報送信

この状態でナンバーを読み取り、登録車両であった場合に照合アラームでIOユニットやIFコンバーターから接点信号を出しても、
車両がまだループコイルの位置まで到達していないため、ゲートは開かない。

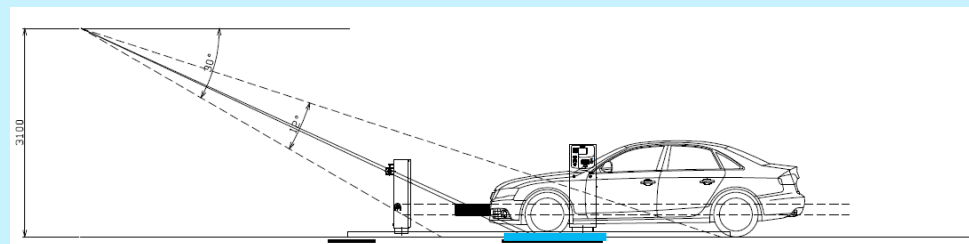


② 2度目のナンバー情報送信

車両がループコイルの位置に達した状態で、
IOユニットやIFコンバーターから再度接点信号を出すとゲートは開く。



現場環境に応じて同一車両のナンバー情報の送信間隔を調整する。



■ 同一車両のナンバー情報送信間隔の設定方法（【商品説明資料】ナンバーキャッチシステム ①カメラ編 を参照）

WV-XAE202Wの詳細設定：「同一車両の送信間隔」を“1秒”に設定してください。

※1秒以外にする場合は、PCのブラウザから下記CGIコマンドで設定してください。

[http://\(カメラIPアドレス\)/cgibin/adam.cgi?methodName=setApplicationPreference&appName=NumCatchApp&prefType=Integer&prefName=lpr_bs_stop_interval&value=3](http://(カメラIPアドレス)/cgibin/adam.cgi?methodName=setApplicationPreference&appName=NumCatchApp&prefType=Integer&prefName=lpr_bs_stop_interval&value=3)

※秒数を変更したい場合は、上記CGIの最後の“value=”の数値を秒数単位で設定してください。例) 3秒間隔で通知する場合：value=3

※WV-XAE202WのV1.10以降で有効



IOユニットやIFコンバーターからの接点出力時間を調整して対応する方法もあり

【連携方法 2】 接点信号のオン時間を長くする

① 最初のナンバー情報送信

この状態でナンバーを読み取り、登録車両であった場合に照合アラームでIOユニットやIFコンバーターから接点信号を出す。

その際の接点信号のオン時間は、車両がループコイルに達するのに十分な時間
(例：5秒) とする。

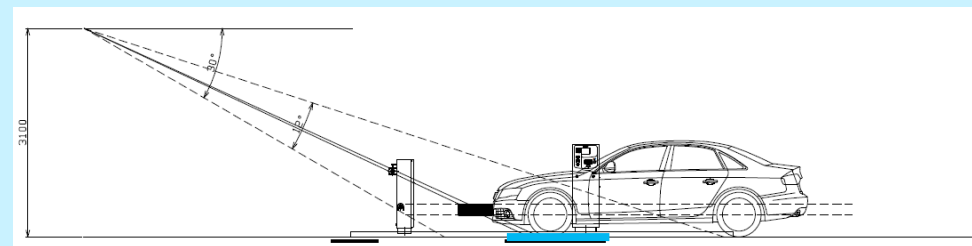
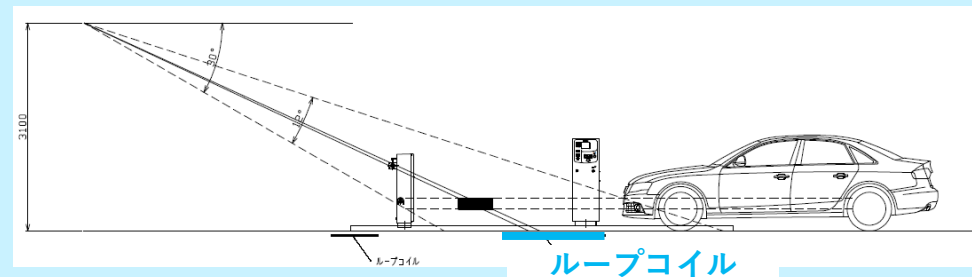


車両がループコイルの位置に達した状態で、
ループコイルセンサーとのAND条件でゲートは開く。



現場環境に応じて同一車両のナンバー情報の送信間隔を調整する。

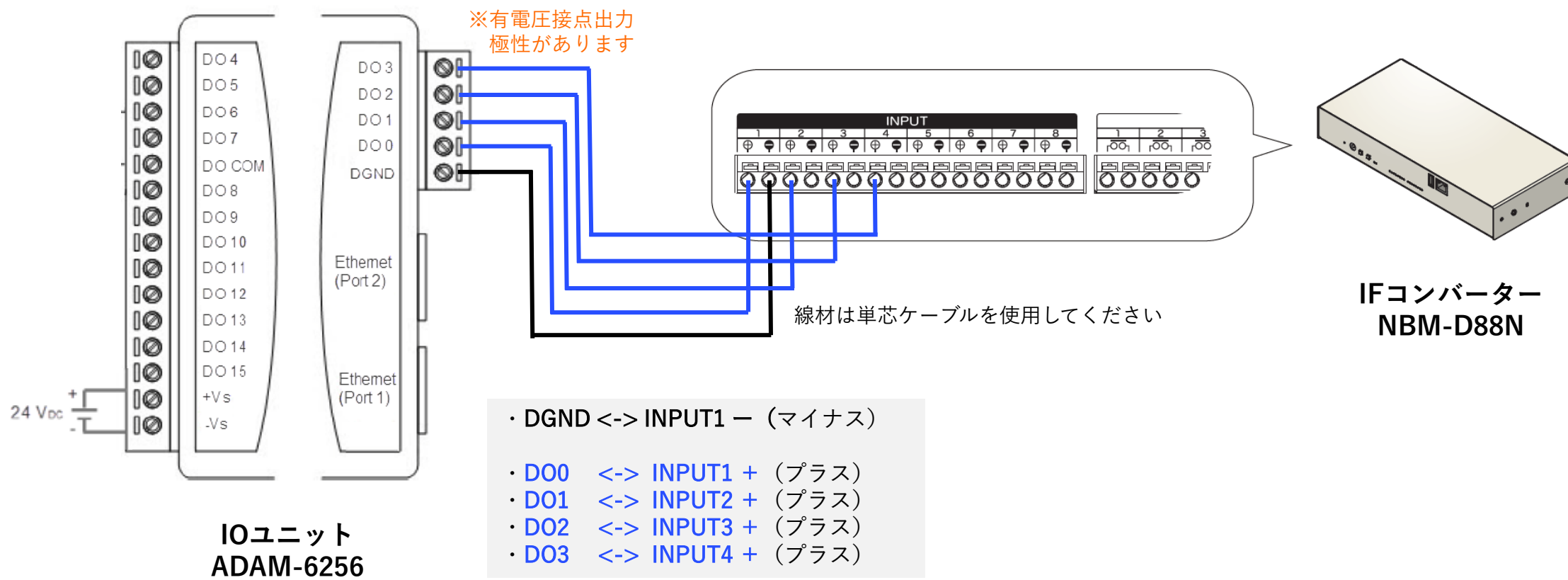
また、ループコイルの前で車両が停止した場合を想定し、
カメラからナンバー情報は再送する設定も行っておく (例：10秒)



2. IFコンバーターA 事務所側 NBM-D88

IOユニット と IFコンバーター は、下記のように接続してください。

※IFコンバータの接点入力がNPNトランジスタに対応しているため、リレーを介さなくても動作可能です。





【事務所側 NBM-D88】 IPアドレスの設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。

① PCのブラウザでIFコンバーターにアクセス

※出荷時のアドレス：192.168.10.1

② ログイン画面でパスワードを入力

※出荷時のパスワード：patlite

③ 「セットアップ項目」 > 「システム設定」を選択

④ IPアドレス設定方法を「手動で設定する」にし、
IPアドレス情報を入力

⑤ 「設定」をクリック



⑥ 画面が切り替わったら、「ネットワークの再起動」をクリック

PATLITE Network Interface Converter FirmwareVersion 2.01

システム設定

機器名称	NBM-D88
設置場所	
連絡先	nbm@patlite.jp
ログホストアドレス	

IPアドレス設定方法 ☒ 手動で設定する ☐ 自動的に取得する

本体IPアドレス	192.168.0.211
ネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
DNSサーバアドレス	192.168.0.1
ホスト名	nbm.patlite.jp
ドメイン名	

HTTPコマンド制御機能 ☒ 有効 ☐ 無効

⑤ 設定

【事務所側 NBM-D88】 RSHコマンド送信設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



① 「セットアップ項目」 > 「RSHコマンド送信設定」を選択

② 名称を入力（動作がわかるもの。6文字以下推奨）

③ 制御するパトライト、IFコンバータのIPアドレスを入力

④ 制御するパトライト、IFコンバータの
RSHコマンド受信設定の共通ログイン名を入力

⑤ 送信するRSHコマンドを入力（次ページも参照）

コマンド例)

・パトライト	10秒間 緑点減	: alert 992990 10
・パトライト	接点出力1(DO1)をON	: alert do 19
・パトライト	接点出力1(DO1)をOFF	: alert do 09
・パトライト	音声1を再生	: sound 1
・IFコンバータ	接点出力1(DO1)を5秒間ON	: alert 19 5
・全動作OFF		: clear

⑥ 最後に「設定」をクリック

【注意事項】

- 登録できるRSHコマンドは最大8個までです。

※ゲート機器と連携するIFコンバーターへのコマンドは最初の方に登録する
(できるだけ遅延動作を避けるため)

RSHコマンド仕様

■ゲート側IFコンバーター NB-D42MP

＜接点出力＞

● alert コマンド	
概要	デジタル出力 <do1><do2> を制御する
書式	alert <do1>[<do2><sec>] または、 alert <do1>[<do2><予約><予約><予約><予約><予約><sec>]
返り値	<do1><do2>999999（コマンド実行後のデジタル出力状態）

種 類		値
do1	デジタル出力 1	デジタル出力状態
do2	デジタル出力 2	0：OFF 1：ON
予約領域		9：制御しない
sec	制御時間	制御時間 0～99：制御時間（秒）



注意

- ⚠ 外部接点出力設定で BUSY 出力に設定しているポートは制御できません。
- ⚠ BUSY 出力に設定されている場合は、実際の出力状態にかかわらず、デジタル出力状態が OFF になります。
- ⚠ ON、OFF の状態は、各ポートのデジタル論理値を示します。
- ⚠ do2 は省略することができますが、do1 を省略することはできません。
- ⚠ sec 省略時は、sec に「0」を指定した場合と同じになります。

ポイント

- [] は、オプションです。省略することができます。

■NW対応パトライト

＜信号灯点灯・ブザー鳴動＞

● alert コマンド	
概要	信号灯（rygbc）やブザー（bz）を制御する
書式	alert <r><y><g><c><bz> [<sec>]
返り値	<r><y><g><c><bz>（コマンド実行後の信号灯状態）

種 類		値
r	赤色ユニット	点灯パターン 0：消灯
y	黄色ユニット	1：点灯
g	緑色ユニット	2：点滅パターン 1 3：点滅パターン 2 4：点滅パターン 3 5：点滅パターン 4
b	青色ユニット	
c	白色ユニット	9：制御しない
bz	ブザー	ブザーパターン 0：非吹鳴
		1：吹鳴パターン 1
		2：吹鳴パターン 2
		3：吹鳴パターン 3
		4：吹鳴パターン 4
		5：吹鳴パターン 5
sec	制御時間	9：制御しない
		制御時間（秒） 0：制御時間を指定しない（省略できます） 1～99：制御時間を指定



注意

- ⚠ alert コマンド実行中に、alert コマンドを実行した場合、制御時間は上書きされます。ただし、RSH/SSH コマンド受信設定でタイマーリストアを個別に設定した場合は、個別で制御時間を指定することができます。

ポイント

- [] は、オプションです。省略することができます。
- 設定した時間を過ぎた場合、alert コマンド実行直前の信号灯状態とチャンネル 61～64、71（ブザーパターン 1～5）の動作に戻ります。
- 制御時間を省略した場合は、制御状態を継続します。

＜音声送出＞

● sound コマンド NHVシリーズ	
概要	信号灯（rygbc）や音声再生（ch）を制御する
書式	sound [-r <repeat>] [-c <r><y><g><c>] <ch>
返り値	<ch>（コマンド実行後の音声再生チャンネル）

種 類		値
repeat	リピート回数	リピートする回数 0：ワンショット再生（省略できます） 1～254：リピート回数 255：エンドレス再生
r	赤色ユニット	点灯パターン 0：消灯
y	黄色ユニット	1：点灯
g	緑色ユニット	2：点滅パターン 1 3：点滅パターン 2
b	青色ユニット	4：点滅パターン 3 5：点滅パターン 4
c	白色ユニット	9：制御しない
ch	音声チャンネル	音声再生チャンネル 1～71：音声チャンネル



注意

- ⚠ リピート回数を省略した場合は、ワンショット再生されます。
- ⚠ チャンネル 61～64 および 71 は、常に「後入力優先モード」で再生されます。

ポイント

- [] は、オプションです。省略することができます。

【事務所側 NBM-D88】 デジタル入力（接点入力）設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



① 「動作設定項目」 > 「デジタル入力設定」を選択

② 信号定義を「状態」にする

③ 「ON状態時の動作設定」にて、送信するRSHコマンドを選択する

※右図は、パトライトを10秒間緑点滅し、接点出力1（DO1）をON

④ 「OFF状態時の動作設定」にて、送信するRSHコマンドを選択する

※右図は、パトライトの接点出力1（DO1）をOFF

⑤ 最後に「設定」をクリック

■ ゲート側：パトライト設置の場合（パトライト経由でゲート機器と連携）

IFコンバーターの接点入力1(DI1)のオン時間に応じて、
パトライトの接点出力1(DO1)も動作します（1ショットパルス出力）。

■ ゲート側：IFコンバーター設置の場合（IFコンバーター経由でゲート機器と連携）

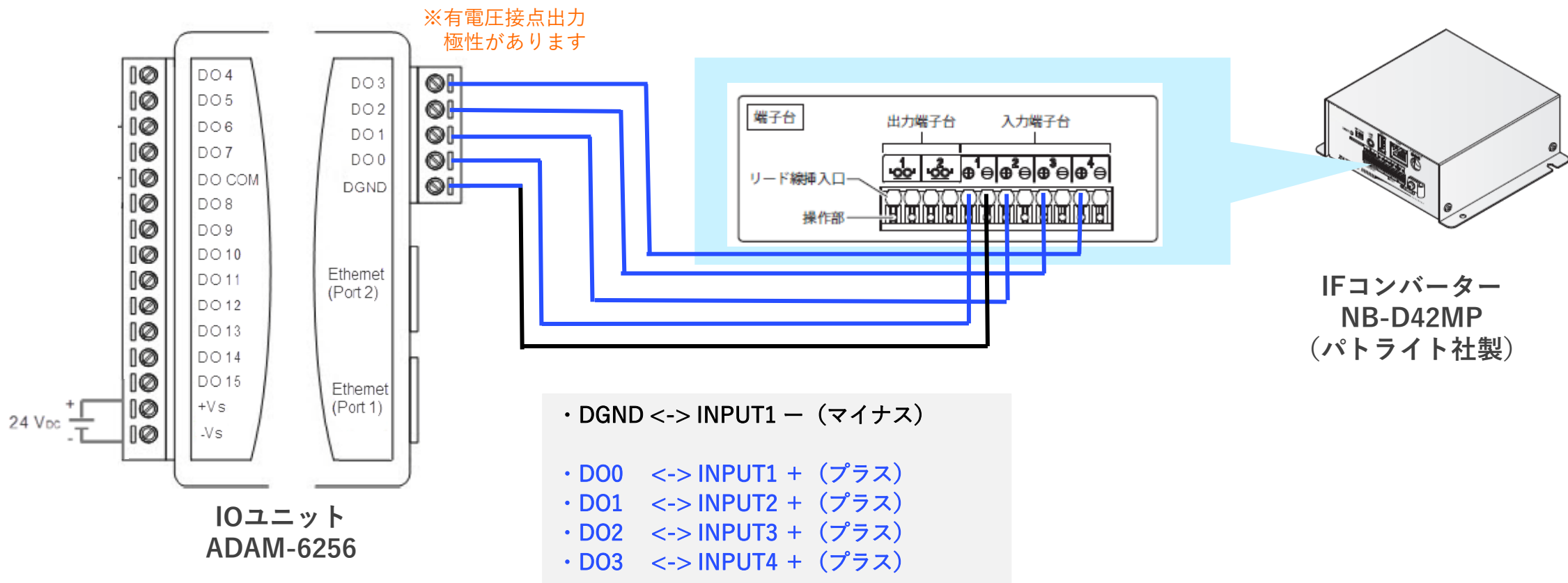
- ・ ②の信号定義を「ON状態」にし、③のRSHコマンドでON時間を指定した
IFコンバータの接点出力コマンドを選択すれば1ショットパルス出力が可能です。

■ ゲート側：パトライト設置の場合

3. IFコンバーターB ゲート側 NB-D42MP

IOユニット と IFコンバーター は、下記のように接続してください。

※IFコンバータの接点入力がNPNトランジスタに対応しているため、リレーを介さなくても動作可能です。



【ゲート側 NB-D42MP】 IPアドレスの設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



- ① PCのブラウザでIFコンバーターにアクセス

※出荷時のアドレス：192.168.10.1

- ② ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力

ユーザー名：patlite

パスワード：patlite

- ③ 「本体設定」 > 「ネットワーク設定」を選択

- ④ IPv4設定で「手動設定」にし、
IPアドレス情報を入力

- ⑤ 「設定」をクリック

機体名称: Interface Converter, MAC アドレス: 80:39:e5:02:65:b1, Firmware Version: 2.00

本体設定 > ネットワーク設定

① ネットワーク設定

IPv4 設定方法: ☒ 手動設定 ☐ 自動設定

IPアドレス: 192.168.0.15 ②

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ:

デフォルトゲートウェイのない環境で、RSHコマンドを使用する場合は登録なし(空欄)

DNSサーバーアドレス 設定方法: ☒ 手動設定 ☐ 自動設定

DNSサーバーアドレス: 0.0.0.0

ホスト名:

キャンセル 設定

【ゲート側 NB-D42MP】各種機能の有効化を行います。
事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



① 「本体設定」 > 「機能の有効化」を選択

② 本体機能設定
・ RSHコマンド受信機能
・ HTTPコマンド制御
を“有効”にする

③ 本体制御設定
全項目を“有効”にする

④ 最後に「設定」をクリック

機体名称: Interface Converter, MAC アドレス: 80:39:e5:02:65:b1, Firmware Version: 2.00

本体設定 > 機能の有効化

① 機能の有効化

② 本体機能設定

機能	無効	有効
SSHコマンド受信機能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RSHコマンド受信機能	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
HTTPコマンド制御	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
ソケット通信設定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
変化情報送信	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
LTE通信機能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メール定時送信機能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
定期再起動機能	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

③ 本体制御設定

機能	無効	有効
接点入力 1	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
接点入力 2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
接点入力 3	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
接点入力 4	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
接点出力 1	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
接点出力 2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

④ SNMP設定

機能	無効	有効
SNMPコマンド受信	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

【ゲート側 NB-D42MP】 HTTPコマンド送信設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



① 「通知設定」 > 「HTTP通知設定」 > 「HTTPコマンド送信先」 を選択

② 名称を入力（動作内容がわかる名前）

② HTTPコマンドを入力

・ <http://アドレス/コマンド> の形で記載

③ タイムアウトはデフォルトのまま

④ パトライトの場合は ”認証なし”

⑤ 最後に「設定」をクリック

① 名称

② コマンド

③ タイムアウト(1-10)秒

④ HTTP認証: Basic認証

⑤ 設定

⑥ ユーザー名

⑦ パスワード

⑧ HTTP認証: Digest認証

【ゲート側 NB-D42MP】 接点入力の動作設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



- ⑩ 「監視設定」 > 「接点入力設定」
 > 「状態変化検知設定」を選択

- ① 接点入力ポートを選択

- ④ 信号定義 = “ON状態”

- ⑬ HTTPコマンド送信 = “有効”

- ⑭ HTTPコマンド送信設定 = 送信コマンドを選択

- ⑯⑰ 接点出力 1、2 = “ON”

※オン時間は「設定出力設定」で設定

- ⑲最後に「設定」をクリック

【ゲート側 NB-D42MP】 接点出力のオン時間の設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



①「本体操作設定」>「接点出力設定」を選択

① 接点出力ポートを選択

⑥ 自動OFF時間 = 接点 ON 時間 を選択
0 ~ 600秒

⑦最後に「設定」をクリック

【ゲート側 NB-D42MP】 RSHコマンド受信設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



- ① 「コマンド受信設定」
 > 「RSH/SSHコマンド受信設定」を選択
- ② RSHコマンド受信機能を「有効」にする
- ③ RSHコマンド受信設定の
 送信元アドレス指定を「無効」にする
- ④ RSHコマンド受信時の共通ログイン名を入力
 ※IFコンバータ側のRSHコマンド送信設定に
 入力したものとあわせる
- ⑤ 最後に「設定」をクリック

The screenshot displays the PATLITE web interface for configuring RSH/SSH command reception. The top status bar shows the device name 'Interface Converter', MAC address '80:39:e5:02:65:b1', and firmware version '2.00'. The sidebar on the left contains various configuration categories, with 'RSH / SSHコマンド受信設定' highlighted by a red box and a circled '1'. The main content area is divided into sections: 'RSH / SSHコマンド受信設定' (containing 'RSHコマンド受信機能' and 'SSHコマンド受信機能' toggles, with 'RSH' highlighted by a red box and a circled '2'), 'コマンド受信時通知方法' (containing 'メール送信' and 'SNMP通知' toggles), 'RSHコマンド受信設定' (containing '送信元アドレス指定' and '共通ログイン名' fields, with '送信元アドレス指定' highlighted by a red box and a circled '3', and '共通ログイン名' set to 'patlite' highlighted by a red box and a circled '4'), and 'SSHコマンド受信設定' (containing 'ポート番号' and '認証方式' fields). A red box and a circled '5' highlight the '設定' (Settings) button in the top right corner.

4. パトライト

【NHVシリーズパトライト】 IPアドレスの設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



- ① PCのブラウザでIFコンバーターにアクセス

※出荷時のアドレス：192.168.10.1

- ② ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力

ユーザー名：patlite

パスワード：patlite

- ③ 「本体設定」 > 「ネットワーク設定」を選択

- ④ IPv4設定で「手動設定」にし、
IPアドレス情報を入力

- ⑤ 「設定」を選択

機体名称: Network Signal Tower | MAC アドレス: 80:39:e5:02:52:5c | Firmware Version: 1.10

本体設定 > ネットワーク設定

① ネットワーク設定

IPv4 設定方法: ☒ 手動設定 ☐ 自動設定

IPアドレス: 192.168.0.105

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ:

②

③

デフォルトゲートウェイのない環境で、
RSHコマンドを使用する場合は登録なし(空欄)

DNSサーバーアドレス 設定方法: ☒ 手動設定 ☐ 自動設定

DNSサーバーアドレス: 0.0.0.0

設定

【NHVシリーズパトライト】各種機能の有効化を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



① 「本体設定」 > 「機能の有効化」を選択

② 本体機能設定：
・RSHコマンド受信機能
・HTTPコマンド制御
を“有効”にする

③ 本体制御設定：
全項目を“有効”にする

④ 最後に「設定」を選択

【NHVシリーズパトライト】送出する音声を登録します。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



- ① 音声登録 > 「音声登録」を選択
- ② 登録するチャンネルを選択
- ③ 音声タイトルを入力
- ④ 送出するメッセージを入力
- ⑤ 言語、声（男性/女性）、トーン、速度を選択
- ⑥ 「視聴する」を押して音声を確認
- ⑦ 音声の前後に通知音（チャイムやブザー）を付加する場合は、付加する音を選択
- ⑧ 「チャンネルリストに追加」を押す
- ⑨ 最後に「設定」押す

CH	タイトル	LineOut	再生	停止	削除
CH 1	エリア1	<input checked="" type="checkbox"/>	-	-	削除
CH 2		<input checked="" type="checkbox"/>	-	-	-
CH 3		<input checked="" type="checkbox"/>	-	-	-
CH 4		<input checked="" type="checkbox"/>	-	-	-

【NHVシリーズパトライト】 RSHコマンド受信設定を行います。

事前キッティングで設定済みですが、変更がある場合は設定してください。



① 「コマンド受信設定」 > 「RSH/SSHコマンド受信設定」 を選択

② RSHコマンド受信機能を「有効」にする

③ タイマーリストアを「個別」にする

④ RSHコマンド受信設定の
送信元アドレス指定を「無効」にする

⑤ RSHコマンド受信時の共通ログイン名を入力
※IFコンバータ側のRSHコマンド送信設定に
入力したものとあわせる

⑥ 最後に「設定」をクリック

機体名称: Network Signal Tower, MAC アドレス: 80:39:e5:02:52:5c, Firmware Version: 1.12

コマンド受信設定 > RSH / SSHコマンド受信設定

① RSH / SSHコマンド受信設定

RSH / SSHコマンド受信設定

RSHコマンド受信機能 ② 無効 ☒ 有効

SSHコマンド受信機能 無効 ☐ 有効

タイマーリストア ③ ☐ 共通 ☒ 個別

コマンド受信時通知方法

メール送信 無効 ☐ 有効

SNMP通知 無効 ☐ 有効

RSHコマンド受信設定

送信元アドレス指定 ④ 無効 ☐ 有効

共通ログイン名 ⑤ patlite

⑥ 設定

総合試験

各種動作および設定の確認を実施

5 総合試験 実施項目

分類	試験項目		確認内容	試験結果	
カメラ 単体	ナンバー 認識精度	車両の速度	<input type="checkbox"/> 想定される上限スピードでナンバーを認識できること。 (※ICTツールで測定して確認)	日中	
		車両の動線	<input type="checkbox"/> 想定される全ての動線（入出場コース）でナンバーを認識できること。 (※ICTツールで測定して確認、★確認した動線も記載しておく) <input type="checkbox"/> 入出場判定が自動の場合は、判定結果も正しいこと。	夜間	
				日中	
		連続通過	<input type="checkbox"/> 車両が連なって通過してもナンバーを認識できること。 (※ICTツールで測定して確認)	夜間	
				日中	
太陽光の影響	<input type="checkbox"/> スマホアプリ等での事前確認結果を記載し、 影響ある場合はその時間帯にテストを実施し結果も記載する。	朝日			
			西日		
映像監視 ソフト & パソコン	基本動作	疎通確認	<input type="checkbox"/> PCからカメラ、スイッチ、レコーダー、外部機器（外部IO、パトライト等）にPingコマンドを実行し、応答があること。	—	
		時計設定	<input type="checkbox"/> PC、カメラ、スイッチ、レコーダーの日時時刻が正しく、同期がとれていること。 (PCとスイッチはレコーダーに対してNTPで同期させる)	—	
		自動起動	<input type="checkbox"/> 電源ボタンを押してPCが起動し、一定時間後に監視制御ソフト（WV-ASM300）が自動起動すること。	—	
		定期レポート	<input type="checkbox"/> PCが所定のスケジュールで自動再起動し、監視ソフトASM300も起動すること。 (運用の影響のない時間帯で、毎日の実施を推奨) <input type="checkbox"/> 再起動時間は車両の通行がない、または少ない時間帯とすること。	—	
		画面表示	<input type="checkbox"/> 操作モニター、ナンバーキャッチモニターが正常に表示されること。 (ナンバーキャッチモニターが表示されていない場合、操作モニターのナンバーキャッチアイコンを押して正常に起動されること。)	—	
		カメラ登録状況	<input type="checkbox"/> 操作モニターに登録した各カメラのアイコンが正常に表示されること。	—	
		画角確認	<input type="checkbox"/> 登録した各カメラの画角が、ナンバー認識の設計どおりになっていること。	—	
		ライブ映像確認	<input type="checkbox"/> 各カメラのライブ映像が1画および多画面（4画、9画など）で正常に表示できること。 <input type="checkbox"/> 多画面時に動きにカクツキ（秒1コマ表示）のないこと。 (ASM300のライブ取得先が"カメラ"で"AUTO"になっていること)	—	
		再生映像確認	<input type="checkbox"/> 各カメラの再生映像が1画および4画で正常に表示できること。	—	

分類	試験項目		確認内容	試験結果	
映像監視 ソフト & パソコン	ナンバー 情報受信	認識結果表示	<input type="checkbox"/> 「認識情報」画面に各車両のナンバー情報、静止画像が表示されること。 <input type="checkbox"/> 以下の場合の動作が運用仕様どおりになっているかも確認。 (「履歴ルール設定」の内容も確認) ①同一ナンバーが連続した場合 ②ナンバーの一部項目が認識できなかった場合	—	
		履歴出力	<input type="checkbox"/> ナンバー情報の履歴が正しくファイル出力できること。 (CSVおよびHTMLの両方で確認。)	—	
	ナンバー 照合	登録ナンバーリスト 作成	<input type="checkbox"/> 登録ナンバーリストを作成し、ナンバー情報を登録できこと。 <input type="checkbox"/> ユーザー作成のCSVデータがある場合は、正しくインポートできるかも確認。	—	
		照合アラーム	照合動作仕様（ルール）ごとに所定のアラーム動作をすること。 <input type="checkbox"/> 画面表示（ポップアップ、「アラーム」画面） <input type="checkbox"/> 外部機器との連携動作 連携する他社納品機器が動作確認できない状況の場合は、 接点出力等の動作が相手側機器の要求仕様どおりか確認。	仕様1 仕様2 仕様3 ...	
	滞留検知	滞留アラーム	滞留動作仕様（ルール）ごとに所定のアラーム動作をすること。 <input type="checkbox"/> 画面表示（ポップアップ、「アラーム」画面） <input type="checkbox"/> 外部機器との連携動作 連携する他社納品機器が動作確認できない状況の場合は、 接点出力等の動作が相手側機器の要求仕様どおりか確認する。	仕様1 仕様2 仕様3 ...	
	保守機能	履歴保存期間	<input type="checkbox"/> 履歴の保存期間の設定が要求仕様どおりになっていること。 (「履歴ルール設定」の内容。初期値：60日。最大120日まで設定可能)	—	
		バックアップ	<input type="checkbox"/> ナンバー認識アプリのバックアップデータが自動で作成されていること。 <input type="checkbox"/> バックアップ先は「バックアップ設定」画面で設定したフォルダで、Cドライブとは別のドライブ（増設内蔵HDD）になっていること <input type="checkbox"/> 開始時間は車両の通行がない、または少ない時間帯になっていること。 <input type="checkbox"/> バックアップ動作の時間帯がPC自動レポート時間と被っていないこと。 → PCリブート & アプリ起動完了後の時間とする	—	

各機器の設定バックアップ

(次頁以降の “■バックアップ” の個所を参照)

6-1 カメラ、レコーダーの設定バックアップとリストア (1/2)

手順 1

■バックアップ (設定保存)

- ① i-PRO設定ツールで機器を読み込む
- ② バックアップする機器をチェックして選択
- ③ 「ファイルのダウンロード」をクリック

- ④ “設定ファイル”にチェック
※カメラの場合は“JPEG静止画”もチェック

- ⑤ 「開始」をクリック

i-PRO設定ツールのデータ保存フォルダに
ファイルが一式保存されます。初期状態は、
デスクトップの ¥i-PRO設定ツール¥DeviceInfo

※カメラについては、本体設定データに加え
ナンバーキャッチアプリ(XAE202)の設定データ
も一緒に保存されます。

SD
ViewingData
adamAppPref_XAE200_0110_v3.80_WV-S7130UX_192.168.10.10_v2.85.dat
WV-S7130UX_192.168.10.10_v2.85.dat

ナンバーキャッチ

カメラ本体



6-1 カメラ、レコーダーの設定バックアップとリストア (2/2)

手順 1

■ リストア (設定復旧)

- ① i-PRO設定ツールで機器を読み込む
- ② 復旧する機器をチェックして選択
- ③ 「ファイルのアップロード」をクリック

④ カテゴリーを選択

※リストアは機器種別・アプリごとに実行します。
ナンバーキャッチは「ナンバー認識」を選択。

⑤ 設定ファイルを選択 例)

SD
ViewingData
adamAppPref_XAE200_0110_v3.80_WV-S7130UX_192.168.10.10_v2.85.dat
WV-S7130UX_192.168.10.10_v2.85.dat

ナンバーキャッチ

カメラ本体

⑥ 「開始」をクリック

i-PRO設定ツール - V4.4.0.2 J [192.168.0.199/24]

新規 | 開く | 保存 | マニュアル | オプション

ファイルのアップロード

*(全検索) | 絞り込み条件

メニュー選択

IP アドレスの変更

管理者の初期設定

カメラの一括設定

レコーダーの設定

AI現場学習の管理

機能拡張ソフトウェアの管理

CGIリストの送信

証明書の管理

ファイルのダウンロード

③ ファイルのアップロード

ファームウェアの更新

カメラの初期化/再起動

プロダクト解析アシスト

全ての機器

	メッセージ	IPアドレス	品番	カメラタイトル	MACアドレス
1	✓	192.168.0.101	WV-S7130UX	WV-S7130	D4-2D-C5-1D-66-18

②

④ カテゴリー
カメラ/SDカードレコーダー/ネットワークマイ

⑤

「基本-カメラタイトル」を上書きする
「ストリーム設定-マルチキャストアドレスとポート番号」を上書きする

⑥ 開始

選択/登録件数 : 1/1

6-2 ASM300の設定バックアップとリストア

手順

ASM300へログインし、

①「メンテナンス」を選択

■バックアップ（設定保存）

<設定セーブ>

②「セーブ」をクリック



保存先を選択し「保存」

・設定データ

“Setupdata_yyyymmddhhmmss.bak”
(年月日時分秒)

■リストア（設定復旧）

<設定ロード>

③ 設定データを選択し、「ロード」をクリック



6-3 ASE334ナンバーキャッチアプリの設定バックアップとリストア (1/2)

手順

ASM300へログインし、

- ①「設定」>「ナンバーキャッチ」
>「バックアップ設定」を選択

■バックアップ（設定保存）

<手動バックアップ>

- ②「実行」をクリック
- ③「ステータス問合せ」をクリックし進行状況確認
- ④バックアップが完了したら、
バックアップ保存先フォルダー（右画面の下線部）
に作成された最新のバックアップデータの
以下を1セットとして別の媒体にコピーする。

- (1) ase334_yyyyMMddHHmmss.bak
- (2) ase334_yyyyMMddHHmmss.log
- (3) ase334_yyyyMMddHHmmssフォルダ
およびその中身（Http.log、Image.zip）

- ⑤ ASM300の設定もバックアップし、
上記ファイルと一緒にセットで保存しておく。



6-3 ASE334ナンバーキャッチアプリの設定バックアップとリストア（2/2）

手順

■ リストア（設定復旧）

< 同じPCで設定を復旧する場合 >

- ① ASM300へログインし、
「設定」 > 「ナンバーキャッチ」
 > 「バックアップ設定」を選択
- ② 復旧の「ファイル参照」をクリックし、
バックアップ保存先フォルダー内の復旧したい日時
の“ase334_yyyyMMddHHmmss.bak” を選択する。
- ③ 復旧の「実行」をクリック
- ④ PCを再起動する

< 異なるPCで復旧する場合 >

- ① 元のPCのASM300とASE334の設定データを用意
- ② 新PCにASM300とASE334をインストール
- ③ 新PCのASM300を旧PCの設定データで復元
- ④ PCを再起動
- ⑤ 新PCのASE334のバックアップ保存先フォルダに
元PCのASE334のバックアップファイル一式をコピー
- ⑥ 復旧の「ファイル参照」でバックアップ保存先フォルダ
内の元PCの“ase334_yyyyMMddHHmmss.bak” を選択
- ⑦ 復旧の「実行」をクリック
- ⑧ PCを再起動する



6-4 外部機器の設定バックアップとリストア（1/2）

■パトライト、インタフェースコンバータB（ゲート側 NB-D42MP）



手順

ブラウザで各機器へログインし、

①「管理」＞「コンフィグ」を選択

■バックアップ（設定保存）

＜コンフィグデータ読み出し＞

②「読み出し」をクリック



下記 2 ファイルをダウンロードし保存

- ・ 本体設定データ “config.ini”
- ・ 音声設定データ “sound.pkg”

■リストア（設定復旧）

＜コンフィグデータ書き込み＞

③ 本体設定データと音声設定データの
それぞれで、「ファイルを選択」をクリックし、
設定データファイルを選択

④「書き込み」をクリック

The screenshot displays the PATLITE web interface for a 'Network Signal Tower'. The top header shows the device name, MAC address (80:39:e5:02:61:b2), and firmware version (2.01). The left sidebar contains a menu with '管理' (Management) selected, and 'コンフィグ' (Config) highlighted with a red circle and the number 1. The main content area is divided into two sections: 'コンフィグデータ読み出し' (Config Data Load) and 'コンフィグデータ書き込み' (Config Data Save). In the 'Load' section, the '読み出し' (Load) button is circled in red with the number 2. In the 'Save' section, the 'ファイルを選択' (Select File) buttons for both '本体設定データ' (Main Settings Data) and '音声設定データ' (Audio Settings Data) are circled in red with the number 3. Below these, the '書き込み' (Save) button is circled in red with the number 4. The status for both data types shows '選択されていません' (Not selected).

6-4 外部機器の設定バックアップとリストア (2/2)

■ インタフェースコンバータA (事務所側 NBM-D88)



手順

ブラウザで機器へログインし、

①「保守機能項目」>「コンフィグ設定」を選択

■ バックアップ (設定保存)

<コンフィグデータ読み込み>

①「読み込み」をクリック



下記ファイルをダウンロードし保存

・ 本体設定データ “nbm.ini”

■ リストア (設定復旧)

<コンフィグデータ書き込み>

②「参照」をクリックし、
設定データファイルを選択

③「書き込み」をクリック

The screenshot shows the PATLITE Network Interface Converter web interface. The top header displays the PATLITE logo and "Network Interface Converter Firmware Version 1.00". The main content area is titled "コンフィグ設定" (Configuration Settings). On the left, a sidebar menu lists various settings: セットアップ項目, 動作設定項目, 本体操作項目, 保守機能項目, ファームウェアアップデート, コンフィグ設定 (highlighted with a red box and circled with a red 1), 情報参照項目, and ログアウト. The main area has three sections: "コンフィグデータ読み込み" (Configuration Data Load) with a "読み込み" (Load) button circled in red and labeled with a red 1; "コンフィグデータ書き込み" (Configuration Data Save) with a "参照..." (Browse...) button circled in red and labeled with a red 2, and a "書き込み" (Save) button circled in red and labeled with a red 3. Below the "書き込み" button, there is a note: "書き込みボタンを押すと自動的に再起動します。" (Pressing the Save button will automatically restart the device).

6-5 システムデザインツール (SDT) プロジェクト保存&ファイル出力

カメラの最終調整結果をSDTのプロジェクトにも反映・保存し、プロジェクトファイルとして出力してください

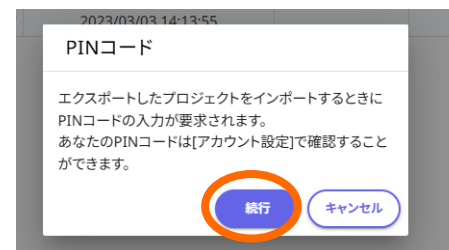
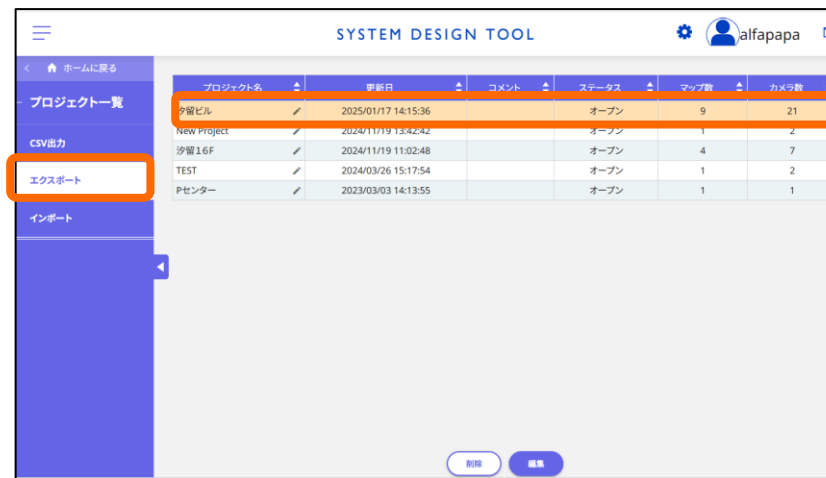
①ホーム画面の、アカウント設定アイコンをクリック。



②PINコード（数字4桁）を入力し。「変更」クリック。
PINコードはプロジェクトのインポート時に使用します。



③ プロジェクト一覧画面で該当のプロジェクトを選択し、「エクスポート」をクリック。



※ダウンロード フォルダにプロジェクトファイルが出力されます。
PINコードと一緒に保管してください。

夕留ビル.sdtproj

The background is a dark blue field filled with various geometric shapes in lighter shades of blue, including squares, rectangles, and semi-circles, some of which are partially overlapping. The shapes are scattered across the entire frame, creating a complex, abstract pattern. The bottom of the image features a white curved border.

Panasonic CONNECT

版	日付	変更内容
1.0版	2025.9.30	・初版 発行